

# 神宝基礎史料集成（撰関期まで編年史料）

Research Materials

近藤好和

## 序言

本稿は、神宝研究の基礎作業として、六国史から撰関期古記録にわたる文献史料のうち特に編年史料から「神宝」についての記述を抜き出し、集成したものである。

管見したのは刊本だけであるが、『古事記』『日本書紀』『続日本紀』『日本後紀』『続日本紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』『類聚国史』『宇多天皇御記』から白川上皇が院政を開始した前年の応徳二年（一〇八五）までの撰関期古記録。やはり同年までの『平安遺文』『類聚三代格』『類聚符宣抄』『日本紀略』『本朝世紀』『扶桑略記』である。『平安遺文』以外の刊本は以下の通りである。

- ・『古事記』『日本書紀』（『日本古典文学大系』）
- ・『続日本紀』『日本後紀』『続日本後紀』『日本文徳天皇実録』『日本三代実録』『類聚国史』『類聚三代格』『類聚符宣抄』『日本紀略』『本朝世紀』『扶桑略記』（『新訂増補国史大系』）
- ・『宇多天皇御記』『醍醐天皇御記』『村上三天皇御記』『一条天皇御記』『後朱雀天皇御記』『後三条天皇御記』（『歴代宸記』『増補史料大成』）

- ・『史部王記』（『史料纂集』）
- ・『貞信公記』『九曆』『小右記』『御堂関白記』『後二条師通記』（応徳二年まで）（『大日本古記録』）
- ・『権記』（『史料纂集』『増補史料大成』）
- ・『左経記』『春記』『帥記』『水左記』（応徳二年まで）（『増補史料大成』）
- ・『為房卿記』（『史聚』十号（一九七九年）、永保二年（一〇八二）まで）

採録した記事は、「神宝使」をはじめ「神宝」「神財」などの用語が出てくるすべての記事であり、記事の前後関係がわかるようになるべく長めに採った。また、一部で「神宝」が出てこない宝物奉納記事も採った。なお、『類聚国史』は省略した。

記事は天皇順に分類し（除『日本書紀』）、そのなかで編年順に並べた。記事中の（ ）は、筆者による補足説明や各刊本に載る訂正部分であり、訂正部分には筆者の見解によるものも含まれている。

筆者ひとりでの作業であるため、脱漏もあろう。脱漏は叱正していただきたい。

史料集成

○『日本書紀』

・崇神天皇六十年七月己酉(十四日)条

詔「群臣」曰、武日照命(中略)、從「天將來神寶、藏于出雲大神宮」、是欲「見焉」、則遣「矢田部造祖武諸隅」(中略)而使「獻」、當「是時」、出雲臣之遠祖出雲振根主「于神寶」、是往「筑紫國」而不「遇矣」、其弟飯入根、則被「皇命」、以「神寶」、付「弟甘美韓日狹与子鸚濡淳」而貢上、既而出雲振根、從「筑紫」還來之、聞「神寶獻于朝廷」、責「其弟飯入根」曰、數日當待、何恐之乎、輒許「神寶」、是以、既經「年月」、猶懷「恨怒」、有「殺」弟之志、

・垂仁天皇三年三月条

新羅王子天日槍來歸焉、將來物、羽太玉一個・足高玉一個・鸚鹿々赤石玉一個・出石小刀一口・出石棒一枝・日鏡一面・熊神籬一具、并七具、則藏「于但馬國」、常為「神物」也、

・垂仁天皇二十六年八月庚辰(三日)条

天皇勅「物部十千根大連」曰、屢遣「使者於出雲國」、雖「檢」校其國之「神寶」、無「分明申言者」、汝親行「于出雲」、宜「檢校定」、則十千根大連校「定神寶」、而分明奏言之、仍令「掌」神寶也、

・垂仁天皇三十九年十月条

五十瓊敷命、居「於茅渟菟砥川上宮」、作「劍」一千口、因名「其劍」、謂「三川上部」、亦名曰「裸伴」(中略)、藏「于石上神宮」也、是後、命「五十瓊敷命」、俾「主」石上神宮之神寶、

・垂仁天皇八十七年二月辛卯(五日)条

五十瓊敷命、謂「妹大中姬」曰、我老也、不「能」掌「神寶」、自「今」以後、必汝主焉、大中姬命辭曰、吾手弱女人也、何能登「天神庫」耶(中略)、五十瓊敷命曰、神庫雖「高」、我能為「神庫」造「梯」、豈煩「登」庫乎、故

諺曰、天之神庫隨「樹梯」之、此其緣也、然遂大中姬命、授「物部十千根大連」而令「治」、故物部連等、至「于今」治「石上神宮」、是其緣也、

・垂仁天皇八十八年七月戊午(十日)条

詔「郡卿」曰、朕聞、新羅王子天日槍、初來之時、將來宝物、今有「但馬」、元為「國人」見「貴」、則為「神寶」也、朕欲「見」其宝物、即日、遣「使者」、詔「天日槍」之曾孫清彥「而令」獻、於是、清彥被「勅」、仍自捧「神寶」而獻之、羽太玉一個・足高玉一個・鸚鹿鹿赤石玉一個・日鏡一面・熊神籬一具、唯有「小刀」一、名曰「出石」、則清彥忽以「為非」獻「刀子」、仍匿「袍中」、而自佩之、天皇未「知」匿「小刀」之情、欲「籠」清彥、而召之賜「酒於御所」、時「刀子」從「袍中」出而顯之、天皇見之、親問「清彥」曰、爾袍中「刀子」者、何「刀子」也、爰清彥知「不得」匿「刀子」而呈言、所「獻神寶」之類也、則天皇謂「清彥」曰、其「神寶」之、豈得「離」類乎、仍出而獻焉、皆藏「於神府」、然後、開「宝府」而視之、小刀自失、則使「問」清彥曰、爾所「獻刀子」忽失矣、若至「汝所」乎、清彥答曰、昨夕、刀子自然至「於臣家」、仍明且失焉、天皇則惶之、且更勿「覓」、是後、出石刀子、自然至「于淡路嶋」、其嶋人謂「神」、而為「刀子」立「祠」、是於「今所」祠也、

・文武天皇三年(六七五)八月庚辰(三日)条

遣「忍壁皇子」於石上神宮、以「膏油」塗「神寶」、即日、勅曰、元來諸家貯「於神府」宝物、今皆還「其子孫」、

・持統天皇六年(六九二)九月丙午(十四日)条

神祇官奏、上「神宝書」四卷・鍵九箇・木印一個、

○文武天皇：文武天皇元年(六九七)八月一日即位

・『續日本紀』慶雲元年(七〇四)十一月庚寅(八日)条

遣「從五位下」忌部宿祢子首、供「幣帛」・鳳凰鏡・窠子錦于伊勢大神宮、

○聖武天皇：神龜元年（七二四）二月四日即位

・『住吉大社司解』天平三年（七三一）七月五日（『平安遺文』補一）

座「撰津職」住吉大社司解、申「言上」神代記事（中略）

神財流代長財

神世草薙劍一柄（在「驗」、日月五星、左青龍、右白虎、前朱雀、後玄武）、形俤「文彫」也（長三尺、金銀・螺鈿上作、納「唐錦袋」、唐鏡一尺四面・白銅鏡八面（八寸）・鉄鏡八面（八寸）、納「黑漆篋」、浜鉄小刀四柄（納「犀角鞘」）・大刀四十柄・弓・胡祿四十具、各納「油絹袋」、鞆八枚・楯四十枚・梓四十枚・鈴四十口（大二十口・小二十口）、御神殿裝束

三間絹斑幄一条（御解除料）・玉纒一枚（金銅并飭居玉等）・杼頭二枚（金銅）・麻桶筥一口（押「金薄」）・櫛一基（平文）・蓋骨四具（胡粉繪）・梓二枚（金銅）・鏡八面（四面銅・四面鉄）・鈴三十二口（金銅八口・中二十四口）・鏡篋八合（平文并白綾縫立）・大刀四柄（平文并金銅金物）・梓三十二本（胡粉繪）・弓四張（赤漆）・鞆四枚（黑漆）・胡祿四面（在「金銅金物」）・箭二百枚・几帳骨四基（金銅金物）・几帳帷四条（紫頰纈）・吳床四脚（平文）・金銅金物并色革敷物）・竿敷床四脚（黑漆）・絹蓋四条（綿（錦））・弓袋四条（緋油衣）・胡祿袋四条（緋油衣）・大刀袋四条（綿（錦））・緋綱八条・白馬一疋（色採飭）・衣鞆櫃三合（赤漆加「宮形并鉄鏤」）・唐飭鞍一具（雲聚一茎・銀面一枚）・髮袋一枚・尾袋一枚・鍔一懸（泥繪）・手綱一条・泥障一懸・唐鑊一懸（金銅）・頸纈（紫染、加大鈴一口）・鞆一具（付「杏葉」）、已上神宝二具（内裝束一具料・表裝束一具料）、生絹壁代四条（長各六丈三尺、五幅）・生絹幌八条（長各七尺、四幅、在「裏」）・帛絹天井上覆（長各一丈四尺）・紫絹御帳帷四条（長各七尺、十八幅）・細布御床土敷四条（長一丈、四幅）・緋絹御床上覆四条・坂枕四枚（端裏「錦」）・疊四枚（端裏「雲綱」）・八重疊四枚（長一丈四尺、

八幅、端裏「錦」、

・『続日本紀』天平十年（七三八）五月辛卯（二十四日）条

使「右大臣正三位橘宿祢諸兄・神祇伯從四位下中臣朝臣名代・右少弁從五位下紀朝臣宇美・陰陽頭外從五位下高麦太」、費「神宝」奉「于伊勢大神宮」、

○淳仁天皇：天平宝字二年（七五八）八月一日即位

・『続日本紀』天平宝字六年（七六二）十一月庚子（二十六日）条

奉「幣及弓矢於天下神祇」、

○桓武天皇：天応元年（七八二）四月十五日即位

・『日本紀略』延暦十四年（七九五）八月甲午（三十日）条

大「祓宮中及左右京・畿内・近江・伊賀・伊勢國」、為「奉」伊勢太神宮裝束物「也」、

・『日本後紀』延暦二十四年（八〇五）二月庚戌（十日）条

造石上神宮使正五位下石川朝臣吉備人等、支「度」功程「申」上单功一十五万七千人、太政官奏「之」、勅曰、此神宮所「以異」於他社「者何、或臣奏云、多収「兵仗」故也、勅有「何因縁」所「収」之兵器、奉「答云、昔来天皇御「神宮」、便所「宿収」也、去「都」差遠、可「慎」非常、伏請卜食而運遷、是時文章生從八位上布留宿祢高庭、即修「解申」官云、得「神戶」百姓等疑「称、比来、大神頻放「鳴鑼」、村邑咸恠、不「知」何「祥」者、未「經」幾時、運「遷神宝」、望「請奏」聞此状、蒙「從」停止、官即執奏、被「報宣」称、卜筮吉合、不「可」妨言、所司咸来、監「運神宝」、収「山城國葛野郡」訖、無「故倉」仆、更収「兵庫」、既而聖体不予、典「蘭」建部千繼、被「充」春日祭使、聞「平城松井坊」有「新神」託「于」女巫上、便過請問、女巫云、今所「問」不「是」凡人之事、宜「聞」其主、不「然」者、不「告」所「問」、仍述「聖体不予之状」、即託語云、歷代御宇天皇、以「

慰勲之志、所送納之神宝也、今踐穢吾庭、運収不当、所以唱天下諸神、勒諱贈天帝耳、登時入京密奏、即詔神祇官并所司等、立二幄於神宮、御飯盛銀筥、副御衣一襲、並納御輦、差典闈千繼充使、召彼女巫、令鎮御魂、

○平城天皇：大同元年（八〇六）五月十八日即位

・『日本紀略』大同二年（八〇七）正月辛丑（十二日）条

遣使奉大唐綵幣於香椎宮、

・『日本紀略』大同二年（八〇七）八月癸亥（八日）条

遣使奉神宝并唐国信物於伊勢大神宮、

○淳和天皇：弘仁十四年（八三三）四月二十七日即位

・『日本紀略』天長元年（八二四）四月乙酉（六日）条

御大極殿差使奉遣御釵并幣帛伊勢大神宮、有崇故也、

・『日本紀略』天長七年（八三〇）四月乙巳（二日）条

御大極殿覽出雲国々造所獻五種神宝、兼所出雜物、

○仁明天皇：天長十年（八三三）三月六日即位

・『統日本後紀』天長十年（八三三）四月壬戌（五日）条（『日本紀略』同）

遣從四位下行伊予權守和氣朝臣真綱奉御釵・幣帛於八幡大菩薩宮及香椎廟上、告新即位也、

・『統日本後紀』承和五年（八三八）十月戊子（四日）条（『日本紀略』同）

遣左兵庫頭從五位上岡野王等奉神宝於伊勢太神宮上、

・『統日本後紀』承和九年（八四二）十二月庚辰（二十日）条（『日本紀略』同）

獻楯列山陵神宝曰、天皇（我）詔旨（良麻止）挂掛力（畏）支神功

皇后御陵（尔）申賜（閉止）申（久）、御心（尔）念行（須）事有（尔）依

（天）、御宝弓・劍等設備（天）、吉日良辰（乎）擇（天）、參議從四位上

式部大輔兼讚岐守滋野朝臣貞主（乎）、差使（天）奉出、此状（乎）、聞

食（天）、御心（尔）念行（我）如（尔）、国家（乎）平（久）護賜（比）

○文德天皇：嘉祥三年（八五〇）四月十七日即位

・『日本文德天皇實錄』嘉祥三年（八五〇）八月戊辰（二十三日）条（『日本紀略』同）

遣從五位上高原王向豐前・筑前兩国以宝劍・明鏡・名香・

綵帛等奉八幡宮及香椎廟上、

・『日本文德天皇實錄』嘉祥三年（八五〇）九月乙酉（十一日）条（『日本紀略』同）

遣少納言從五位上鎌藏王・內藏頭從五位下中臣朝臣壹志等向伊勢大神宮、依例奉幣、別獻細馬五疋、以充神御、

・『日本文德天皇實錄』嘉祥三年（八五〇）九月戊子（十四日）条

遣參議左兵衛督正四位下藤原朝臣助向賀茂大神社、策命曰、天

皇（我）詔旨（止）、掛畏（支）大神（乃）広前（尔）申賜（倍止）申（久）、

先先（尔）祈申賜（倍留）御馬并神財（乎）九月（尔）潔備（天）奉出賜

（波々）可吉（止）卜申（利）、故是以神財（乎）設備（天）潔捧（天）奉出

（須）、但御馬（波）馬寮内（尔）有穢（尔）依（弓）、此度（波）不奉（出）、

來年（乃）四月（乃）祭（尔）設備（天）奉（出）无、此状（乎）聞食（天）、

天皇朝廷（乎）堅磐（尔）、天下平安（尔）護賜（比）賜（倍止）恐（見）恐

（見毛）申賜（波久止）申、

・『日本文德天皇實錄』嘉祥三年（八五〇）九月己丑（十五日）条

亦遣參議藤原朝臣助向春日大神社、策命曰、天皇（我）詔旨

亦遣參議藤原朝臣助向春日大神社、策命曰、天皇（我）詔旨

亦遣參議藤原朝臣助向春日大神社、策命曰、天皇（我）詔旨

亦遣參議藤原朝臣助向春日大神社、策命曰、天皇（我）詔旨

〔止〕、大神〔乃〕広前〔尔〕申賜〔倍止〕申〔久〕、皇大神〔乃〕厚護〔尔〕依〔天之〕天日嗣〔乃〕高御座〔尔波〕、平〔介久〕即賜〔止奈毛〕所〔念行〕〔須〕、因〔茲〕天、先〔先〕尔〔祈〕申賜〔比之〕御冠〔止〕為〔天奈毛〕建御賀豆智命・伊波比主命二柱〔乃〕大神〔乎波〕正一位〔尔〕、天兒屋根命〔乎波〕從一位〔尔〕、比売神〔乎波〕正四位上〔尔〕、上奉〔利〕崇奉〔留〕状〔乎〕、神財〔乎〕令〔捧〕持〔天〕奉〔出〕須、此状〔乎〕聞食〔天〕、益益〔尔〕、天皇朝廷〔乎〕堅磐〔尔〕幸〔倍〕奉賜〔比〕、天下平安〔尔〕護賜〔比〕助賜〔倍止〕恐〔見〕恐〔見毛〕申賜〔波久止〕申、

・『日本文德天皇実録』嘉祥三年(八五〇)十月甲子(二十日)条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>左馬助從五位下紀朝臣貞守<sub>中</sub>向<sub>中</sub>紀伊国日前・国懸大神社<sub>下</sub>、策命曰、天皇〔我〕詔旨〔止〕、掛畏大神等〔乃〕広前〔尔〕申給〔倍止〕申〔久〕、先〔先〕尔〔神財〕奉<sub>レ</sub>進〔牟止〕祈申賜〔比支〕、故是以、種種〔乃〕神財〔乎〕潔備〔天〕令〔捧〕持〔天〕奉<sub>レ</sub>出〔須〕、此状〔乎〕聞食〔天〕、天皇朝廷〔乎〕常磐〔尔〕堅磐〔尔〕護幸奉賜〔比〕、天下平安〔尔〕矜賜〔比〕助賜〔倍止〕、恐〔見〕恐〔見毛〕申賜〔波久止〕申、

・『日本紀略』仁寿元年(八五二)九月庚辰(十一日)条

遣<sub>下</sub>使者<sub>上</sub>向<sub>中</sub>伊勢大神宮、奉<sub>レ</sub>細馬八疋、以充<sub>中</sub>神御<sub>上</sub>、宝幣具至、

・『日本文德天皇実録』仁寿元年(八五二)十月己酉(十一日)条

遣<sub>下</sub>大藏少輔從五位下藤原朝臣良方<sub>上</sub>、向<sub>中</sub>香椎・八幡大菩薩宮<sub>中</sub>、奉<sub>中</sub>宝幣<sub>上</sub>、

・『日本文德天皇実録』仁寿二年(八五二)七月壬辰(二十七日)条

遣<sub>下</sub>散位從五位上安宗王<sub>上</sub>・從五位下利見王<sub>上</sub>向<sub>中</sub>広瀬・龍田神社<sub>中</sub>奉<sub>中</sub>幣<sub>上</sub>・馬<sub>上</sub>、為<sub>レ</sub>祈<sub>上</sub>年也、

○清和天皇：天安二年(八五八)十一月七日即位

・『日本三代実録』貞觀元年(八五九)正月十日条(『日本紀略』同)

是日、始奉<sub>レ</sub>作<sub>中</sub>天下諸社神宝<sub>上</sub>、仍大<sub>中</sub>祓於建礼門前<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』貞觀元年(八五九)二月十九日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>正五位下守右中弁兼行式部少輔大枝朝臣音人<sub>上</sub>向<sub>中</sub>伊勢国多度神社・尾張国熱田・大懸等神社<sub>中</sub>奉<sub>中</sub>神位記<sub>上</sub>・财宝<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』貞觀元年(八五九)三月一日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>散位從五位下和氣朝臣巨範<sub>上</sub>向<sub>中</sub>豊後国八幡大菩薩宮<sub>中</sub>奉<sub>中</sub>幣帛<sub>上</sub>・财宝<sub>上</sub>・神馬等<sub>上</sub>、告以<sub>中</sub>即位之由<sub>上</sub>也、

・『日本三代実録』貞觀元年(八五九)七月十三日条

大<sub>中</sub>祓於建礼門前<sub>上</sub>、以<sub>中</sub>明日<sub>上</sub>將<sub>レ</sub>發<sub>中</sub>奉諸神社幣并财宝使<sub>上</sub>也、

・『日本三代実録』貞觀元年(八五九)七月十四日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>使者<sub>上</sub>向<sub>中</sub>神宝<sub>上</sub>・幣帛<sub>上</sub>(賀茂上下社・松尾社・平野社・大原野社・乙訓社・大神社・石上社・春日社・当麻社・住吉社・丹墀社・杜本社・氣比・氣多両社・日前・国懸両社)、

・『日本三代実録』貞觀三年(八六一)二月七日条

遣唐使者向<sub>中</sub>撰津国住吉社<sub>中</sub>奉<sub>中</sub>神宝<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』貞觀七年(八六五)四月十七日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>從五位下行木工權助和氣朝臣舜範<sub>上</sub>向<sub>中</sub>石清水八幡大菩薩宮<sub>中</sub>奉<sub>中</sub>楯<sub>上</sub>・矛并御鞍<sub>上</sub>、告文云、天皇〔我〕詔旨〔度〕、掛畏〔岐〕石清水〔尔〕坐八幡大菩薩〔乃〕広前〔尔〕申給〔止〕申〔久〕、新宮構造〔天波〕、楯・

梓及種々神財可<sub>レ</sub>奉出<sub>上</sub>、而神財〔波〕且奉出〔已止〕畢〔太利〕、楯・梓并御鞍等〔乎奈毛〕怠〔利介留〕、此〔乎〕今造<sub>中</sub>餽〔天〕、礼代大幣帛〔乎〕令〔捧〕持〔天〕、使木工權助從五位下和氣朝臣舜範差〔天〕奉出給〔布〕、

但御鞍〔波〕三具〔奈毛〕奉出〔須倍加利介留〕、然〔乎〕申伝〔太留〕人〔奈毛〕誤〔天〕、二具〔乎〕令〔造〕天介留、因〔天〕一具〔乎波〕大菩薩〔尔〕奉〔利〕、一具〔乎波〕卜定〔天〕大帶命〔尔〕奉〔留〕、但比咩大神〔乃〕御料〔波〕今使<sub>中</sub>造〔天〕後〔尔〕、吉日良辰〔尔〕奉出〔牟〕、此状〔乎〕平〔安脱力〕〔介久〕、聞食〔天〕、天皇朝廷〔乎〕宝位無<sub>レ</sub>道〔久〕、

遣<sub>下</sub>散位從五位上安宗王<sub>上</sub>・從五位下利見王<sub>上</sub>向<sub>中</sub>広瀬・龍田神社<sub>中</sub>奉<sub>中</sub>幣<sub>上</sub>・馬<sub>上</sub>、為<sub>レ</sub>祈<sub>上</sub>年也、

堅石常石(尔)夜守日守(尔)護幸(倍)賜(比)、天下国家無(事)久(護助給(倍止)、恐(美)恐(美毛)申賜(波久止)申、

・『日本三代実録』貞觀八年(八六六)四月十一日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>使撰津国住吉神社<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>神財<sub>下</sub>、

・『日本三代実録』貞觀九年(八六七)四月二日条

遣<sub>下</sub>神祇大祐正六位上大中臣朝臣常道<sub>上</sub>向<sub>上</sub>近江国伊福伎神社<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>弓

箭・鈴・鏡<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』貞觀十年(八六八)九月七日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>從五位下守右少弁藤原朝臣千乘・左大史正六位上刑部造真鯨等

於伊勢大神宮<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>大神財宝<sub>上</sub>、是隔<sub>上</sub>二十年<sub>上</sub>所<sub>上</sub>造也、大<sub>上</sub>祓於建礼

門前<sub>上</sub>而發<sub>上</sub>使、

・『日本三代実録』貞觀十二年(八七〇)九月八日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>正五位下守左中弁源朝臣直・右大史正六位上広階宿祢八鈞於伊

勢大神宮<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>神宝<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』貞觀十五年(八七三)五月五日条

神祇官・陰陽寮言、雨雹之恠、賀茂・松尾等神成<sub>上</sub>崇、於<sub>上</sub>是遣<sub>下</sub>使

社頭<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>幣并走馬<sub>上</sub>、以謝<sub>上</sub>神怒<sub>上</sub>、其走馬、賀茂御祖・別雷兩社各十

疋、松尾五疋、並裝<sub>上</sub>飾人馬<sub>上</sub>、足<sub>上</sub>悦<sub>上</sub>神明<sub>上</sub>、告文曰云々、從五位下

行伊勢介良岑朝臣晨茂(乎)差<sub>上</sub>使(天)奉出(須)、

○陽成天皇：元慶元年(八七七)正月三日即位

・『日本三代実録』元慶元年(八七七)二月二十一日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>從五位下行主殿權助在原朝臣友于<sub>上</sub>向<sub>上</sub>豐前国八幡大菩薩宮・香

椎廟<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>幣・劍等物<sub>上</sub>、告以<sub>上</sub>天皇即位<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』元慶二年(八七八)三月七日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>使奉<sub>上</sub>伊勢太神宮幣并神宝<sub>上</sub>・弓・梓・劍等物<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』元慶二年(八七八)三月九日条

分<sub>上</sub>遣使者<sub>上</sub>、奉<sub>中</sub>幣・馬於賀茂御祖・別雷・松尾・石清水・稻荷・住吉・

平野・大原野・梅宮<sub>上</sub>、及班<sub>上</sub>幣五畿七道諸名神<sub>上</sub>、賽<sub>上</sub>旧祈<sub>上</sub>也、

・『日本三代実録』元慶二年(八七八)七月二十六日条(『日本紀略』同)

大和国広瀬・龍田兩社造<sub>上</sub>立倉各一字<sub>上</sub>、為<sub>上</sub>納<sub>上</sub>神宝<sub>上</sub>也、

・『日本三代実録』元慶二年(八七八)十二月二十四日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>兵部少輔從五位下兼行伊勢權介平朝臣季長<sub>上</sub>向<sub>上</sub>大宰府<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>幣櫃

日・八幡及姫神・住吉・宗形等大神<sub>上</sub>、其櫃日・八幡・姫神別奉<sub>上</sub>綾

羅御衣各一襲・金銀裝宝釵各一<sub>上</sub>、

・『日本三代実録』元慶三年(八七九)六月十四日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>使於大和国広瀬・龍田・撰津国住吉・大依羅等四神社<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>神財<sub>上</sub>、

・『類聚三代格』元慶三年(八七九)七月二十二日官符

應<sub>上</sub>勸<sub>上</sub>造住吉神社神財帳三通<sub>上</sub>事、右檢<sub>上</sub>案内<sub>上</sub>、彼社神財觸<sub>上</sub>類有<sub>上</sub>數、

而前來神主等不<sub>上</sub>勤<sub>上</sub>守掌<sub>上</sub>、雖<sub>上</sub>有<sub>上</sub>遷替<sub>上</sub>終無<sub>上</sub>勸發<sub>上</sub>、前神主津守公

守在<sub>上</sub>任之時、多失<sub>上</sub>神財<sub>上</sub>、(中略)每<sub>上</sub>有<sub>上</sub>遷替<sub>上</sub>必造<sub>上</sub>三通<sub>上</sub>、一通進<sub>上</sub>

官、一通付<sub>上</sub>国、一通留<sub>上</sub>社、立為<sub>上</sub>恒例<sub>上</sub>不<sub>上</sub>得<sub>上</sub>遺漏<sub>上</sub>、

・『類聚三代格』元慶五年(八八一)十月十六日官符

應<sub>上</sub>准<sub>上</sub>筑前本社<sub>上</sub>置<sub>上</sub>從一位勳八等宗像大神社神主<sub>上</sub>事、(中略)依<sub>上</sub>太

政官去年三月二十七日符旨<sub>上</sub>預<sub>上</sub>官社<sub>上</sub>訖、自<sub>上</sub>從清御原天皇御世<sub>上</sub>至<sub>上</sub>

于<sub>上</sub>当今<sub>上</sub>、氏人等所<sub>上</sub>奉<sub>中</sub>神宝并園地色數稍多、高階真人累代鱗次執<sub>上</sub>当

社事<sub>上</sub>、而今經<sub>上</sub>世久遠人意懈緩、或不<sub>上</sub>勤<sub>上</sub>守掌<sub>上</sub>紛<sub>上</sub>失<sub>上</sub>神宝<sub>上</sub>、或彼

此相讓闕<sub>上</sub>怠祭事<sub>上</sub>、如是之故屢致<sub>上</sub>重崇<sub>上</sub>、

○光孝天皇：元慶八年(八八四)二月二十三日即位

・『日本三代実録』元慶八年(八八四)四月二十五日条(『日本紀略』同)

遣<sub>下</sub>從四位下行山城守和氣朝臣鬯範<sub>上</sub>向<sub>上</sub>大宰府・宇佐八幡大菩薩宮<sub>上</sub>

奉<sub>中</sub>幣帛・綾錦等物<sub>上</sub>、告以<sub>上</sub>天皇踐祚<sub>上</sub>也、

・『日本三代実録』仁和二年(八八六)九月四日条(『日本紀略』同)於「建礼門前」修「大祓」、以「明日奉伊勢大神宮神宝使可」進發也、  
 ・『日本三代実録』仁和二年(八八六)九月五日条(『日本紀略』同)奉大神宮神宝使左大史正六位上善世宿祢有友・史生二人・官掌一人進發、凡伊勢大神宮神宝、二十年一度改作、前修之後十九年于茲、雖「未」滿「限」、改造既畢、仍奉「之」、

○宇多天皇：仁和三年(八八七)十一月十七日即位

・『日本紀略』仁和四年(八八八)十一月八日条  
 發「遣大神宝使」、  
 ・『日本紀略』寬平元年(八八九)十月九日条  
 差「使於伊勢大神宮」奉「神宝」、

○醍醐天皇：寬平九年(八九七)七月十三日即位

・『日本紀略』昌泰元年(八九八)七月二十日条  
 下「知五畿七道諸国」、奉「幣」神宝於諸名神社「(或云、二十六日發「遣之」)」、  
 ・『日本紀略』昌泰元年(八九八)八月二十三日条  
 發「遣使者於伊勢大神宮并五畿七道諸名神」、奉「神財」、又豊前国宇佐宮同奉「神財」、

・『扶桑略記』裏書・延喜元年(九〇一)九月十五日条  
 奉「幣諸名神」(神宝使)、  
 ・『日本紀略』延喜五年(九〇五)九月五日条  
 奉「神宝於伊勢大神宮」、  
 ・『貞信公記』延喜八年(九〇八)十月九日条  
 依「伊勢神財事」、廢務、  
 ・『扶桑略記』裏書・延喜八年(九〇八)十月九日条

伊勢豊受宮神宝并遷宮使進發、

・『醍醐天皇御記』延喜十六年(九一六)八月二十五日条  
 此日奉「幣字佐並」平野廟幣帛、立「机」脚東庇南一間「(机下敷」筵一枚)」、置「御鏡」・「劔」(雖「有」自余幣物、有「煩」取上、仍「置」此「備」拜礼)云々、

・『貞信公記』延喜二十年(九二〇)三月二十七日条

請「(弁力)日師談」、明後日參「坤宮」、可「祈」申除病「之願状云、若平損、奉「幣」走馬・神宝」、又自參云々、

・『貞信公記』延長二年(九二四)九月五日条

廢(廢)務、依「伊勢大神遷宮神宝等使進發」也、依「貞觀」・「延喜例」所「行」也、

・『醍醐天皇御記』延長三年(九二五)九月十一日条

奉「大神宮幣」如「常」、又加「奉幣帛及金銀」・「鏡」・「劔」・「雜神宝等」云々、(中略)神宝等内藏寮納「辛櫃」、

・『日本紀略』延長三年(九二五)九月十一日条

天皇行「幸八省院」、例幣之外、加「奉金銀」・「鏡」・「劔等神宝」、  
 ○朱雀天皇：延長八年(九三〇)十一月二十一日即位

・『貞信公記』承平元年(九三一)正月十七日条

神宝造始、即經(位)日御願也、令「神祇(官脱力)行「祓事」、非「大祓」、  
 ・『貞信公記』承平元年(九三一)三月二十四日条

即注(位力)奉幣使出立、但有「列(別力)奉「神宝」之社上、左金吾行事、  
 ・『貞信公記』承平二年(九三二)六月十一日条

公忠朝臣来云、檢「前例」、諸神々宝・宇佐神宝、同日奉「遣者」、依「例可」行、

・『貞信公記』承平二年(九三二)九月十七日条

於「職曹司」、定「奉神宝使」、  
 ・『貞信公記』承平二年(九三二)九月二十二日条

即位之後、神社神宝今日奉遣、從八省出云々、

・『日本紀略』承平二年(九三二)九月二十二日条

依大嘗会、被奉一代一度大神宝於伊勢及諸社、

・『本朝世紀』天慶元年(九三八)十月八日条

宇佐宮大宮司宇佐是憲叙外從五位下一位記、并明日被遣同宮奉幣神財使右近少將小野朝臣好古等許往還官符一通、(中略)令右近衛權少將良岑朝臣義方請印、

・『本朝世紀』天慶元年(九三八)十月九日条

已二剋、發遣宇佐宮奉幣使小野好古朝臣等、其儀裝束御所綾綺殿西庭(不知委曲由)、召宮主外從五位下占部宿祿茂行(參入自敷政・青瑣門)、有御禊事、使好古朝臣同候御前、祝詞了之後、好古・宮主共退出、大納言伊望卿乍在御所、召少内記藤原国均、令進宣命、召好古朝臣給之、又神財(御鏡・鏡等類也)・幣帛(綾・錦・繡類也、又有余幣)等各召御前一覽了、即須給使好古朝臣(神祇官占串一人相副)、又更召好古朝臣於御前賜御衣一襲、好古拜舞退出(出入從敷政・青瑣門)、剋限發向了、

(宣命・四月十五日地震御占・奉幣・延引)礼代(の)御幣及金銀幣帛・

御鏡・御鏡等(乎)令捧持(天)奉出給(布)、

・『貞信公記』天慶元年(九三八)十月二十四日条

賀茂御祈神宝依穢延行由、命頼基取申、

・『本朝世紀』天慶元年(九三八)十一月三日条

今日、自殿上依御祈、差右中弁源公忠朝臣令參賀茂、事旨在宣命、

(宣命)去五月二日(尔)令祈申給(布)事有(シル)依(テ)、神宝・走馬等令調飭(女)給(牟)須(問)尔、内裏(尔)頻有触穢之事(天)延遲給(利)、仍去月三十日(与)始(天)、彼神宝等令造備(女)給(天)、吉日良辰(乎)撰定(天)奉出給(牟)須(問)尔、

・『日本紀略』天慶二年(九三九)十一月十五日条

奉幣・神宝・走馬於七社、祈太后不予之由、

・『本朝世紀』天慶二年(九三九)十一月十五日条

奉幣八社(石・賀上下・松・平・春・原・稻・祇)、每社有走馬・神宝、左右近衛為乘尻、是去承平七年六月并去月二十三日皇太后御惱之間御願也、

・『九曆断簡』天慶四年(九四一)八月九日条

賀茂・八幡等有奉幣(兵乱早令討滅給(良は)神(宝力)

、

・『本朝世紀』天慶四年(九四一)八月九日条

以午二点、内裏臨時被奉遣幣帛於石清水・賀茂上下、(石清水宣命)件賊討滅(せ志め)賜(倍良波)、神宝(乎)造飭(り)歌舞(乎)調奉(止)令祈申(め)給(比支)、(中略)是只掛畏(支)大菩薩(乃)恤賜(倍留奈利と奈ん)畏喜(ひ)賜(布)、御祈(乎)早(仁)奉(果(り)賜(牟)度須(尔)、神宝金銀練久(久)彫鏤巧妙(尔)造飾之間其程可(廻(之)、

(賀茂宣命)因茲(天)早(仁)平(此乱(介)賜(倍良波)、種々(乃)神宝(乎)造備(天)奉出賜(波牟)祈申(志女)賜(き)、又御意(乃)内(尔)祈申(シ)賜(ふ)事在(支)、(中略)是只掛畏(支)皇大神(乃)広助厚願(奈り東)所念行(天)、造奉神宝(利)、又御祈(乎毛)果奉(利)賜(波无と須(尔)、神宝等令造飭(无(問(仁)、其程可(廻(之)、

・『本朝世紀』天慶五年(九四二)四月十四日条

此日、有臨時伊勢大神宮奉幣之事、(中略)天皇還本宮、(中略)召諸社使等、一々給宣命奉遣了(石清水・賀茂上下・松尾・平野・大原野・稻荷・春日・大神・大和・布瑠・住吉・広田)、(中略)此度相副神財等被奉(諸社同相加)、具由在宣命、



(伊勢・石清水・賀茂各宣命)天慶の乱平定報謝・神宝の語あり、

・『本朝世紀』天慶五年(九四二)四月二十七日条

今日、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>遣宇佐宮神財并幣帛等<sub>一</sub>、(中略)又石清水被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>遣神財并舞人・歌人等<sub>一</sub>、

(石清水宣命)天慶の乱平定報謝・神財の語あり(宇佐宣命は後欠)、

・『日本紀略』天慶五年(九四二)四月二十九日条

天皇幸<sub>二</sub>賀茂社<sub>一</sub>、奉<sub>二</sub>神宝・幣帛・走馬<sub>一</sub>、祢宜等加<sub>二</sub>給爵位<sub>一</sub>、依<sub>二</sub>兵乱平和之賽<sub>一</sub>也、

・『本朝世紀』天慶五年(九四二)四月二十九日条

是日、天皇有<sub>二</sub>賀茂上下社行幸<sub>一</sub>、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神財并御幣等<sub>一</sub>、是東西国賊乱之時依<sub>二</sub>御祈願<sub>一</sub>也(子細在<sub>二</sub>別日記<sub>一</sub>)、

(宣命)神宝の語あり、

・『本朝世紀』天慶八年(九四五)十二月九日条

(外宮遷宮延引)公忠即就<sub>二</sub>国史・日記<sub>一</sub>□□奉<sub>二</sub>条々勘文<sub>一</sub>(一条、十二月有<sub>二</sub>宮移事<sub>一</sub>例、一条、宮移并臨時奉<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>之時并<sub>レ</sub>不参例、一条、立<sub>二</sub>神宝使<sub>一</sub>時先<sub>一</sub>日有<sub>二</sub>大祓<sub>一</sub>例、一条、諸神事并有<sub>レ</sub>障之時有<sub>二</sub>并代<sub>一</sub>例、一条、内裏有<sub>レ</sub>穢時発<sub>二</sub>向件神宝使<sub>一</sub>例等也)、

・『本朝世紀』天慶八年(九四五)十二月十日条

藏人木工権助藤原佐忠以<sub>二</sub>昨日勘文<sub>一</sub>、持<sub>二</sub>参太政大臣家<sub>一</sub>、令<sub>二</sub>定申<sub>一</sub>、即被<sub>二</sub>定申<sub>一</sub>者、伊勢太神宮并豊受宮二十年一度宮移時副<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、猶并<sub>二</sub>史参向者也<sub>一</sub>、而此度并皆有<sub>レ</sub>障、不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>参者、然則取<sub>二</sub>代官<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>令<sub>二</sub>発向<sub>一</sub>、

・『貞信公記』天慶八年(九四五)十二月十三日条

伊勢豊受宮遷宮使并代神祇伯忠望王令<sub>レ</sub>持<sub>二</sub>神宝等<sub>一</sub>参向、仍癡(廢)務、

○村上天皇・天慶九年(九四六)四月二十八日即位

・『貞信公記』天慶九年(九四六)十月三日条

中文(使)公輔来云々、伊勢大神使可<sub>レ</sub>立事、齋王薨由可<sub>レ</sub>申事、七(道脱)送<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、寛平例在<sub>二</sub>明年<sub>一</sub>、

・『九曆抄』天曆元年(九四七)二月三日条

或説云、佐保殿不<sub>レ</sub>当<sub>二</sub>南方<sub>一</sub>者、仍殿下御惱頗有<sub>二</sub>小間<sub>一</sub>者、今日欲<sub>二</sub>進発<sub>一</sub>、身代差<sub>二</sub>伊(尹カ)<sub>一</sub>、奉<sub>二</sub>上錦五色幣・神宝・舞人・走馬等<sub>一</sub>、

・『貞信公記』天曆元年(九四七)四月十七日条

入<sub>レ</sub>夜中使俊朝臣来云、一代所<sub>レ</sub>奉神宝、寛平・延喜例有<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>進<sub>二</sub>度者一人<sub>一</sub>・仏舍利入<sub>二</sub>銀塔<sub>一</sub>之事上、而承平無<sub>二</sub>此事<sub>一</sub>(如脱カ)何云々、是宣命案所<sub>レ</sub>見也、

・『日本紀略』天曆元年(九四七)四月十七日条

定<sub>二</sub>一代一度諸社神宝使<sub>一</sub>、

・『日本紀略』天曆元年(九四七)四月十九日条

請<sub>二</sub>内印<sub>一</sub>、諸社神宝并奉幣使符(十三通)、又請<sub>二</sub>外印<sub>一</sub>、大宰府八幡大菩薩并香椎廟幣帛使祿料符也、

・『貞信公記』天曆元年(九四七)四月二十日条

依<sub>二</sub>前例<sub>一</sub>始伊勢大神宮・高名諸神被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神宝等<sub>一</sub>、

・『九曆抄』天曆元年(九四七)四月二十日条

一代一度神宝被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>諸社<sub>一</sub>事(宣命総五十三編云)

・『日本紀略』天曆元年(九四七)四月二十日条

奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>一代一度大奉幣於伊勢大神宮并京畿七道諸国神社<sub>一</sub>、天皇依<sub>二</sub>御物忌<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>御<sub>二</sub>八省院<sub>一</sub>、於<sub>二</sub>建礼門<sub>一</sub>大祓、

・『類聚符宣抄』天曆四年(九五〇)九月十三日官符

太政官符大宰府并山陽道諸国司(内印)、使左衛門権佐從五位下藤原朝臣克忠・卜部從七位上下部宿祢方本、右中納言從三位兼行陸奥・出羽按察使藤原朝臣在衡宣、奉<sub>レ</sub>勅、為<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>幣帛・神宝等<sub>一</sub>於八幡大菩薩宮并香椎廟、差<sub>二</sub>件等人<sub>一</sub>宛<sub>レ</sub>使發遣者、府・国承知、依<sub>レ</sub>宣行<sub>レ</sub>之、

仍須下路次之國設<sub>二</sub>潔齋人<sub>一</sub>祇候通送<sub>上</sub>、不得<sub>二</sub>疎略以致<sub>二</sub>雜穢<sub>一</sub>、符到奉行、位右少弁、位左少弁、

・『村上天皇御記』天曆七年(九五三)二月十三日條  
神祇官勘<sub>二</sub>申園韓神祭所用神寶<sub>一</sub>・裝束<sub>一</sub>、

・『村上天皇御記』天曆七年(九五三)七月十七日條

奉<sub>二</sub>幣<sub>一</sub>・神寶於宇佐・香椎<sub>一</sub>、

・『日本紀略』天德四年(九六〇)八月二十九日條

奉<sub>二</sub>幣諸社<sub>一</sub>、并獻<sub>二</sub>神寶<sub>一</sub>、

・『村上天皇御記』応和元年(九六一)閏三月七日條

此日、奉<sub>二</sub>神寶<sub>一</sub>・幣帛於宇佐宮<sub>一</sub>、又奉<sub>二</sub>幣香椎<sub>一</sub>、(以下、『日本紀略』)

祈<sub>二</sub>去年內裏火并天變革命<sub>一</sub>也、使左少將源伊陟、

・『村上天皇御記』応和元年(九六一)五月二十日條

此日、奉<sub>二</sub>幣<sub>一</sub>・使(マ、)飭劍於宇佐<sub>一</sub>、并奉<sub>二</sub>幣香椎<sub>一</sub>(無<sub>レ</sub>劍)、御禊

宮主出即拜<sub>二</sub>御劍<sub>一</sub>(此劍自<sub>レ</sub>昔所<sub>レ</sub>佩物也)、

・『日本紀略』応和二年(九六二)三月二十二日條

奉<sub>二</sub>神寶<sub>一</sub>・幣帛於宇佐宮<sub>一</sub>、

・『日本紀略』応和二年(九六二)九月六日條

於<sub>二</sub>建禮門<sub>一</sub>大祓、以<sub>二</sub>明日可<sub>レ</sub>發<sub>一</sub>遣伊勢大神宮御裝束神寶使<sub>一</sub>也、

・『村上天皇御記』応和二年(九六二)九月七日條

遣<sub>二</sub>太神宮遷宮神寶使<sub>一</sub>、(中略)(又左大史安國為<sub>二</sub>神寶行事<sub>一</sub>)、

・『日本紀略』応和二年(九六二)九月七日條

依<sub>二</sub>伊勢大神宮遷宮<sub>一</sub>奉<sub>二</sub>神寶等<sub>一</sub>(二十年一度、諸司廢務)、依<sub>二</sub>內裏丙

穢<sub>一</sub>自<sub>二</sub>神祇官<sub>一</sub>進發之、

・『日本紀略』応和三年(九六三)五月二十一日條

奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>伊勢以下諸社幣帛<sub>一</sub>・神寶使<sub>一</sub>、依<sub>二</sub>御物忌<sub>一</sub>、天皇不<sub>レ</sub>臨<sub>二</sub>幸小

安殿<sub>一</sub>、

・『日本紀略』康保元年(九六四)九月五日條

於<sub>二</sub>建禮門<sub>一</sub>大祓、依<sub>二</sub>明日神寶使<sub>一</sub>也、

・『村上天皇御記』康保元年(九六四)九月六日條

可<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>豐受宮遷宮神寶使<sub>一</sub>也、左少弁文相、令<sub>二</sub>藏人文利申<sub>一</sub>依<sub>二</sub>豐受

宮遷宮<sub>一</sub>奉<sub>二</sub>神寶<sub>一</sub>事<sub>上</sub>、

・『日本紀略』康保元年(九六四)九月七日條

奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>伊勢豐受宮<sub>一</sub>二十年一度遷宮神寶使<sub>一</sub>、仍諸司廢務、

・『村上天皇御記』康保元年(九六四)九月十七日條

文相還來、令<sub>二</sub>藏人佐時申<sub>一</sub>遷宮神寶平奉之由<sub>一</sub>、

・『村上天皇御記』康保二年(九六五)九月十五日條

奉<sub>二</sub>神劍<sub>一</sub>・幣帛於宇佐宮并香椎廟<sub>一</sub>(香椎廟不<sub>レ</sub>奉<sub>レ</sub>劍)云々、

○冷泉天皇：康保四年(九六七)十月十一日即位

・『日本紀略』安和元年(九六八)十月二十日條

天皇御<sub>二</sub>大極殿<sub>一</sub>、被<sub>レ</sub>立<sub>二</sub>伊勢已下諸社幣帛使<sub>一</sub>、是則大神寶被<sub>レ</sub>奉故

也、

○円融天皇：安和二年(九六九)九月二十三日即位

・『日本紀略』天祿元年(九七〇)三月十六日條

左大臣以下參內、於<sub>二</sub>建禮門<sub>一</sub>大祓、依<sub>二</sub>大奉幣(大神宝力<sub>一</sub>)也、

・『日本紀略』天祿元年(九七〇)三月二十日條

被<sub>レ</sub>發<sub>二</sub>遣<sub>一</sub>一代一度大奉幣使(大神宝使力<sub>一</sub>)、無<sub>レ</sub>廢務<sub>一</sub>、

・『日本紀略』天祿元年(九七〇)十一月十日條

於<sub>二</sub>建禮門<sub>一</sub>大祓、依<sub>二</sub>明日大神寶<sub>一</sub>也、

・『日本紀略』天祿元年(九七〇)十一月十一日條

被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>五畿七道神寶使<sub>一</sub>、

・『日本紀略』貞元元年(九七六)十月十一日條

被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神寶於<sub>二</sub>社<sub>一</sub>、藩邸時御願也、天變地震事、同被<sub>二</sub>祈申<sub>一</sub>也、

・『小右記』天元五年(九八二)六月十一日条

彼(被)奉<sub>レ</sub>於伊勢神宝・御装束等、是年前(前年力)御願也、左府参入、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>宣命草<sub>一</sub>、

・『日本紀略』天元五年(九八二)六月十一日条

今日、付<sub>二</sub>月次祭使<sub>一</sub>、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神宝・御装束・金銀御幣帛等於大神宮<sub>一</sub>、依<sub>二</sub>石清水行幸時御願<sub>一</sub>也、

・『日本紀略』永觀元年(九八三)九月十日条

奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>伊勢大神宮二十年一度御遷宮神宝<sub>一</sub>、仍於<sub>二</sub>八省院<sub>一</sub>大祓、

○花山天皇：永觀二年(九八四)十月十日即位

・『小右記』寛和元年(九八五)十一月十五日条

今日被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神宝於七道諸神<sub>一</sub>、其使藏人所衆等也、宇佐使前周防守中清朝臣、八幡・賀茂・松尾・平野・園韓神・平野(衍力)・春日・稻荷等皆遣<sub>二</sub>侍臣等<sub>一</sub>、

・『日本紀略』寛和元年(九八五)十一月十五日条

奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>一代一度大神宝使<sub>一</sub>、

○一条天皇：寛和二年(九八六)七月二十二日即位

・『小右記』永延元年(九八七)三月二十九日条

撰政着<sub>二</sub>佐保殿<sub>一</sub>、(中略)申時許被<sub>レ</sub>参<sub>二</sub>御社<sub>一</sub>、先於<sub>二</sub>禊殿<sub>一</sub>有<sub>二</sub>御禊<sub>一</sub>、社奉<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、第一金銀幣大納言道隆執<sub>レ</sub>之、已(マ、)以下殿上四位以下、地下五位、六位藤氏者執<sub>レ</sub>之、撰政昇<sub>二</sub>御棚<sub>一</sub>、上達部以下同相扶、以<sub>二</sub>左少弁在国<sub>一</sub>令<sub>レ</sub>誦<sub>二</sub>祭文<sub>一</sub>(其趣主上先願(年力)御願趣)、被<sub>レ</sub>牽<sub>二</sub>廻神馬・走馬等<sub>一</sub>、氏公卿以下奉幣、又被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>歌舞<sub>一</sub>、  
・『小右記』永延元年(九八七)六月十三日条  
宇佐使及畿内七道諸国使等(皆有<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>)、今日被<sub>レ</sub>發遣<sub>一</sub>、是御即位以後奉幣也、

・『小右記』永祚元年(九八九)正月十一日条

辰時許参<sub>二</sub>石清水<sub>一</sub>、院奉<sub>二</sub>為公家有<sub>二</sub>種々御祈<sub>一</sub>(行<sub>二</sub>神宝・音樂・東遊、院御志、書写<sub>二</sub>供養百部仁王般若經<sub>一</sub>、又転<sub>二</sub>誦大般若經<sub>一</sub>)、

・『小右記』永祚元年(九八九)二月二十八日条

撰政参<sub>二</sub>賀茂<sub>一</sub>、(中略)申時許到<sub>二</sub>下御社<sub>一</sub>、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>金銀御幣・神宝等<sub>一</sub>(神宝公卿執<sub>レ</sub>之)、有<sub>二</sub>東遊・舞等<sub>一</sub>、後院儲<sub>レ</sub>饗云々、馳<sub>二</sub>御馬<sub>一</sub>、

・『小右記』永祚元年(九八九)三月二十二日条

今日春日行幸、(中略)使納言及舞人・陪從等参<sub>二</sub>向社頭<sub>一</sub>、其間事不<sub>レ</sub>知、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神宝・音樂・東遊・神樂等<sub>一</sub>歟、

・『權記』正曆四年(九九三)九月二十日条

(藤原道兼春日詣)午剋被<sub>レ</sub>参<sub>二</sub>御社<sub>一</sub>、奉<sub>二</sub>神宝・東遊・走馬等<sub>一</sub>、未刻於<sub>二</sub>馬場殿・飽鮫(鮭鮓力)如<sub>レ</sub>例、臨昏有<sub>二</sub>神樂事<sub>一</sub>、

・『權記』長保元年(九九九)十一月二十七日条

左大臣被<sub>レ</sub>参、即被<sub>レ</sub>仰云、今日奉<sub>二</sub>幣宇佐宮之宣命<sub>一</sub>、三年一度幣帛例事也、但辞別依<sub>二</sub>先年御願<sub>一</sub>、別以<sub>二</sub>神宝并御装束各一具奉<sub>レ</sub>加、(中略)酉剋有<sub>二</sub>御祓<sub>一</sub>、先令<sub>二</sub>侍臣昇<sub>二</sub>立桝<sub>一</sub>脚於殿西第一間、置<sub>二</sub>神宝・御幣等<sub>一</sub>、同第四間鋪<sub>二</sub>御座<sub>一</sub>、垂<sub>二</sub>御簾<sub>一</sub>如<sub>レ</sub>例、御禊了後入御、

・『權記』長保二年(一〇〇〇)九月三日条

右中弁令<sub>二</sub>藏人弁<sub>一</sub>奏云、来七日可<sub>レ</sub>發遣<sub>二</sub>伊勢神宝使依<sub>二</sub>先例<sub>一</sub>用<sub>二</sub>代官<sub>一</sub>、仰云、依<sub>レ</sub>例可<sub>レ</sub>奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>神祇伯秀頼王<sub>一</sub>、

・『權記』長保二年(一〇〇〇)九月五日条

依<sub>二</sub>件文勘<sub>一</sub>式、凡大神宮二十年一度、造<sub>二</sub>替正殿等<sub>一</sub>、其旧宮神宝遷<sub>二</sub>取新殿<sub>一</sub>、但繩・綿之類、頒<sub>二</sub>給大神宮司及祢宜・内人等<sub>一</sub>、神祇祭主処<sub>二</sub>分亦共有分<sub>一</sub>、亦装束・雜物造備、訖即差<sub>二</sub>使弁大夫一人・史一人・史生二人・官掌一人・使部二人・神祇官史一人・史生一人・神部一人・卜部一人・部領<sub>一</sub>送<sub>二</sub>大神宮<sub>一</sub>云々、  
・『日本紀略』長保二年(一〇〇〇)九月五日条

大神宮神寶使官符、今日、有「大祓」、依「被」獻「神寶」也、

・『權記』長保二年(一〇〇〇)九月六日条

藏人実房為「御使」參、申「神寶料總數不足一具之由」、即被「奉」之給、

・『權記』長保二年(一〇〇〇)九月七日条

依「發」遣伊勢神寶、廢務、

・『日本紀略』長保二年(一〇〇〇)九月七日条

依「發」遣伊勢大神宮二十年一度御遷宮神寶使、諸司廢務、件神寶差

弁代神祇伯秀頼王「獻」之、宣命、神祇式之文也、内記不「獻」之、

・『本朝世紀』長保四年(一〇〇二)八月二十五日条

中納言藤原公任卿・權中納言同齊信卿・參議同有国卿・源俊賢卿着

「序座」聽「政」、但今日々請印文中、下「左右京職并五畿内諸国」為「被」

請伊勢豐受宮遷宮「官符」、不「可」請印、「上卿着」序之後、以「召使」

被「仰」云、素服上卿被「行」神寶官符「有」事憚、「過」今日「可」請印「者、

・『本朝世紀』長保四年(一〇〇二)八月二十八日条

次右大臣・參議藤懷平卿・菅原輔正卿着「同座」(右仗座)、令「懷平卿」

少納言藤兼親・少外記慶滋為政等於「結政」行「被」官符請印「上」畢、是來

九月七日為「下」神寶「所」被「營」行「也、

・『權記』長保四年(一〇〇二)九月五日条

伊世豐受神宮神寶送文請印云々、

・『本朝世紀』長保四年(一〇〇二)九月五日条

中納言藤時光卿・參議同忠輔卿着「序座」聽「政」、中納言藤公任卿・參議

同有国卿・源俊賢卿雖「參」左仗陣座、「此日、請」印伊勢豐受大神神

寶送官符、「依」有「故東」三条院服、「不」着「右仗座」、參「結政座」、

右大弁事畢退出、

・『日本紀略』長保四年(一〇〇二)九月六日条

於「建礼門前」大祓、依「可」明日奉「遣」伊勢外宮遷宮神寶使「也、

・『本朝世紀』長保四年(一〇〇二)九月六日条

伊勢豐受大神宮二十年一度御宮移神寶使、明日可「立」、仍於「建礼門  
前」有「大祓」、

・『權記』長保四年(一〇〇二)九月七日条

伊勢豐受宮神寶等進發、勅使弁代神祇伯秀頼王、史惟宗充政、官掌丹

波德任等云々、

・『日本紀略』長保四年(一〇〇二)九月七日条

奉「遣」豐受宮神寶、「二十一年一度遷宮也、

・『本朝世紀』長保四年(一〇〇二)九月七日条

伊勢神寶使立、仍廢務、

・『權記』長保五年(一〇〇三)三月四日条

(石清水行幸)午剋行幸、(中略)申剋著「給宿院」、諸卿就「幄」、昇「神

寶」并御馬引立、使上卿右大將候「膝突」、宮主御禊了、

・『權記』長保五年(一〇〇三)三月七日条

伊勢神寶被「立」、

・『本朝世紀』長保五年(一〇〇三)三月七日条

左大臣・中納言藤公任卿參入、着「右仗座」、有「被」立「伊勢臨時奉幣」、

此則以「長保二年」御内心所「被」立「申御願」也、隨願依「相叶」、祈禱

為「遂」果件御願、「(中略)中納言藤公任卿・右中弁藤朝經朝臣・少外

記小野五倫・右少史内藏為親率「史生・官掌・召使」、參「着」八省院、「

彼時願、神寶副「率」申御裳、「神祇官人并御幣使伊勢權守親兼王、大

神宮并度会宮料神寶・奉幣等、令「受被」立「之」、入「深更」各退出、

・『權記』長保五年(一〇〇三)十二月四日条

參内、發「遣」字佐使、「伊賀守為義朝臣也、未「剋」御「覽」神寶・御裝

束等、「同剋有「御禊」、先南第一間昇「立机」一脚、「敷」筵掃部奉「獻、

御裝束一具・釵一・鏡一・御幣一捧等置「之」、宮主・使等候「庭中」、

御祓物仰「之」如「例」、了撤「御祓物」、御拜之後使參上、昇「出神寶等」

如「例」、召「右大將」令「奏」宣命、

・『御堂閔白記』寛弘元年(一〇〇四)十月十四日条

松尾行幸、(中略)奏<sub>二</sub>宣命<sub>一</sub>、依<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>作違事<sub>一</sub>、令<sub>レ</sub>直、御前立<sub>二</sub>御幣并  
宝神(神宝)等<sub>一</sub>、舞人等引<sub>レ</sub>馬、御禊了<sub>レ</sub>筥<sub>二</sub>笛音<sub>一</sub>、使右衛門督賜<sub>二</sub>插  
頭花<sub>一</sub>、右大弁取<sub>レ</sub>之、舞人・陪從等殿上人賜<sub>レ</sub>之、乍<sub>レ</sub>立、次神祇官  
并諸司等賜<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、依<sub>レ</sub>及<sub>二</sub>晚景<sub>一</sub>、先馳<sub>二</sub>御馬<sub>一</sub>、

・『小右記』寛弘二年(一〇〇五)三月八日条

今日中宮参<sub>二</sub>給大原野社<sub>一</sub>、(中略)抑社頭作法宛如<sub>二</sub>行幸儀<sub>一</sub>、宣命大  
内記宣義持候、大夫齐信卿為<sub>レ</sub>使(中宮事内記伺候、如何)、昇<sub>二</sub>立神  
宝於御前<sub>一</sub>、舞人牽<sub>二</sub>立御馬<sub>一</sub>(左馬寮五疋、右同数)、齐信以下給<sub>二</sub>花  
勝<sub>一</sub>参<sub>二</sub>広前<sub>一</sub>、次左府随<sub>二</sub>身神馬<sub>一</sub>・走馬<sub>一</sub>同参<sub>二</sub>神前<sub>一</sub>、

・『小右記』寛弘二年(一〇〇五)七月十日条

大式去月十六日晝今日到来云、六月十四日已剋着<sub>二</sub>水城<sub>一</sub>、請<sub>二</sub>取印鑑<sub>一</sub>、  
午剋着<sub>二</sub>府庁宿所<sub>一</sub>、先令<sub>二</sub>奉行任符<sub>一</sub>之後、着<sub>二</sub>庁座<sub>一</sub>、定<sub>二</sub>神宝行事  
官人<sub>一</sub>、并請<sub>二</sub>取諸司鑑等<sub>一</sub>、自余事不<sub>レ</sub>違<sub>レ</sub>記事、

・『御堂閔白記』寛弘三年(一〇〇六)四月十六日条

依<sub>二</sub>十三日物忌<sub>一</sub>参<sub>二</sub>賀茂<sub>一</sub>、時々小雨下、入<sub>レ</sub>夜還、有<sub>二</sub>神宝東遊等<sub>一</sub>、  
・『御堂閔白記』寛弘四年(一〇〇七)二月二十九日条  
(藤原道長春日詣)未時参<sub>二</sub>社頭<sub>一</sub>、(中略)就<sub>二</sub>御幣殿<sub>一</sub>、後昇<sub>二</sub>御棚<sub>一</sub>上  
達部・殿上人、奉<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>・氏殿上人・四位等、誦<sub>二</sub>呪文<sub>一</sub>・知章朝臣、奉幣、  
返就<sub>レ</sub>座、神馬・十列廻後、神馬四疋永以奉<sub>レ</sub>献、其後東遊如<sub>レ</sub>常、次  
神楽、次進<sub>レ</sub>膳、

・『御堂閔白記』寛弘四年(一〇〇七)四月十八日条

参<sub>二</sub>賀茂<sub>一</sub>、有<sub>二</sub>東遊・神宝等<sub>一</sub>、

・『御堂閔白記』寛弘六年(一〇〇九)七月四日条

参内、候宿、大和守輔尹進<sub>二</sub>国解并日記等<sub>一</sub>、是昨参<sub>二</sub>日春(春日)社<sub>一</sub>  
初神拝、参<sub>二</sub>率川<sub>一</sub>、令<sub>レ</sub>持<sub>二</sub>神宝夫<sub>一</sub>、山階寺人出来、追取問、国夫領  
(預力)打<sub>二</sub>破頭数所<sub>一</sub>、已可<sub>レ</sub>及<sub>二</sub>死門<sub>一</sub>者、

・『御堂閔白記』寛弘六年(一〇〇九)十二月十六日条

参<sub>二</sub>賀茂<sub>一</sub>、奉<sub>二</sub>神宝・神(馬脱)・十列<sub>一</sub>、  
・『日本紀略』寛弘七年(一〇一〇)閏二月九日条  
於<sub>二</sub>八省院<sub>一</sub>、奉<sub>二</sub>幣二十一社<sub>一</sub>、依<sub>二</sub>祈年穀<sub>一</sub>也、又被<sub>レ</sub>申<sub>二</sub>明年当<sub>二</sub>  
合厄<sub>一</sub>前後年有<sub>二</sub>閏月<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>御慎<sub>一</sub>之由、神祇官・陰陽寮所<sub>レ</sub>申也、  
仍伊・石・賀・松・平・稻・春・原・住・祇・北十二(一カ)社、別  
被<sub>レ</sub>副<sub>二</sub>進神宝・東遊<sub>一</sub>、

・『御堂閔白記』寛弘七年(一〇一〇)八月九日条

可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>宇佐神宝<sub>一</sub>行事兩三人、有<sub>二</sub>触穢<sub>一</sub>不<sub>二</sub>奉仕<sub>一</sub>之、  
・『權記』寛弘八年(一〇一一)四月十七日条

参<sub>二</sub>左府<sub>一</sub>、々々被<sub>レ</sub>参<sub>二</sub>賀茂<sub>一</sub>、(中略)被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>金銀幣帛・神宝・東遊・  
十列等<sub>一</sub>、

・『權記』寛弘八年(一〇一一)六月十一日条

参内、依<sub>二</sub>昨仰<sub>一</sub>召<sub>二</sub>大内記為政朝臣<sub>一</sub>、仰<sub>レ</sub>臨時被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>伊勢大神宮<sub>一</sub>・金  
銀御幣并神宝・告文可<sub>レ</sub>作之由、

・『日本紀略』寛弘八年(一〇一一)六月十一日条

以<sub>二</sub>金銀御幣・神宝等<sub>一</sub>被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>伊勢大神宮<sub>一</sub>、使祭主輔親朝臣、

○三条天皇：寛弘八年(一〇一一)十月十六日即位

・『御堂閔白記』長和元年(一〇一二)四月二十七日条

与<sub>二</sub>女方<sub>一</sub>参<sub>二</sub>中宮<sub>一</sub>、々々吉田祭事被<sub>二</sub>奉仕<sub>一</sub>、又加<sub>二</sub>例幣<sub>一</sub>、神宝付<sub>レ</sub>使、  
予答云、作物所預五人、二人者各預<sub>二</sub>仕悠紀<sub>一</sub>・主基御物、一人寄<sub>二</sub>主  
基標所<sub>一</sub>、今二人預<sub>二</sub>仕藏人所方大神宝事<sub>一</sub>、仍除<sub>二</sub>彼等<sub>一</sub>外、御齋会所  
事誰人奉仕哉、大嘗会行事所不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>論<sub>二</sub>左右<sub>一</sub>、十一月三十日全以可<sub>レ</sub>  
齋、其外事随<sub>レ</sub>宜可<sub>レ</sub>進上<sub>二</sub>敷<sub>一</sub>、

・『小右記』長和元年(一〇一二)九月二日条

・『御堂閔白記』長和元年(一〇一二)十二月十六日

神宝使大(太)皇大(太)后宮大夫定之、從<sub>レ</sub>殿上被<sub>レ</sub>定下<sub>一</sub>也、來十九日可<sub>レ</sub>使立<sub>一</sub>、又定<sub>二</sub>宇佐神宝使<sub>一</sub>、無<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>立其用意<sub>一</sub>、忽有<sub>二</sub>可<sub>レ</sub>立定<sub>一</sub>、仍問<sub>二</sub>神宝行事處<sub>一</sub>、申<sub>二</sub>神宝事雖<sub>レ</sub>兼無<sub>レ</sub>用意<sub>一</sub>、催<sub>二</sub>仰申(衍カ)案内<sub>一</sub>、御裝束事召<sub>二</sub>問掌縫<sub>一</sub>、申云、御裝束四具也、而期日甚近、不<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>奉仕<sub>一</sub>者、上達部定申云、御裝束無<sub>レ</sub>出来<sub>一</sub>、非<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>立、從<sub>二</sub>彼日<sub>一</sub>、初<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>・御裝束<sub>一</sub>、有<sub>二</sub>御祈<sub>一</sub>、又定<sub>レ</sub>日可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>立也者、隨<sub>レ</sub>定可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>行也、

・『御堂閔白記』長和元年(一〇二二)十二月十九日条

依<sub>二</sub>諸社奉幣事<sub>一</sub>、參<sub>二</sub>大内<sub>一</sub>、行事太皇大(太)后大夫前參行<sub>レ</sub>事、余候<sub>二</sub>殿上<sub>一</sub>、催<sub>二</sub>御<sub>一</sub>覽神宝六七前許<sub>一</sub>、(中略)石清水御裝束四具相加、法服一具、昼御裝束(青色御袍)・日染裳・摺裳・唐衣・女裝束一具(裙代(帶)等)・女裝束一具如<sub>レ</sub>常、

・『日本紀略』長和元年(一〇二二)十二月十九日条

奉<sub>レ</sub>遣<sub>二</sub>大神宝使伊勢以下五十一社<sub>一</sub>、先<sub>レ</sub>之大祓、

・『小右記』長和二年(一〇二三)正月四日条

藏人左衛門尉頼祐持<sub>二</sub>来宣旨二枚<sub>一</sub>(内藏寮請奏、自<sub>二</sub>今日<sub>一</sub>始<sub>レ</sub>造宇佐神宝料雜物等用途物)

・『日本紀略』長和二年(一〇二三)十月一日条

一代一度大神宝、宇佐使左衛門尉源頼国朝臣、

・『御堂閔白記』長和二年(一〇二三)十一月二十八日条

石清水行幸、(中略)奏<sub>二</sub>宣命<sub>一</sub>後給<sub>二</sub>勅使<sub>一</sub>、御幣・神宝羅<sub>二</sub>列御前<sub>一</sub>、勅使・宮主着座(勅使東)、御禊了牽<sub>二</sub>出御馬<sub>一</sub>、御拜如<sub>レ</sub>常、勅使給<sub>二</sub>挿頭花<sub>一</sub>、左衛門督給<sub>レ</sub>之、舞人・陪從於<sub>二</sub>幔外<sub>一</sub>給<sub>レ</sub>之、宮司勸賞事被<sub>レ</sub>仰<sub>二</sub>勅使<sub>一</sub>、

・『小右記』長和三年(一〇一四)四月二十七日条

早且資平来云、昨左相府參<sub>二</sub>賀茂(午剋許)<sub>一</sub>、神馬二疋(上下御社各一疋、永以被<sub>レ</sub>奉<sub>レ</sub>之)・走馬十疋、右附近官人騎<sub>レ</sub>之、着<sub>二</sub>青摺(衣・袴)<sub>一</sub>、

皆是舞人、(中略)上下御社各被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>金銀幣・神宝・東遊・神樂等<sub>一</sub>、

・『小右記』長和四年(一〇一五)六月二十六日条

將曹正方云、昨花園今宮御靈会始行、依<sub>二</sub>彼宮牒<sub>一</sub>、作物所造<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、右近衛<sub>二</sub>左右衛門<sub>一</sub>・左右兵衛有<sub>二</sub>奉仕事等<sub>一</sub>、左右馬寮牽<sub>二</sub>十列<sub>一</sub>、兩京人、從<sub>レ</sub>昨通夜、今日終日、奉<sub>二</sub>御幣・神馬<sub>一</sub>、

・『小右記』長和四年(一〇一五)閏六月二十三日条

明日伊勢使參議公信、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>左右馬寮御馬各一疋<sub>一</sub>、御幣如<sub>レ</sub>例、今日宣命趣可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>仰<sub>二</sub>權大納言頼通<sub>一</sub>、若玉体復<sub>レ</sub>例者、可<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>之由等也、

○後一条天皇・長和五年(一〇一六)二月七日即位

・『小右記』長和五年(一〇一六)二月二十三日条

資平云、齋王卜定以後雜事・宇佐并(宮カ)神宝等色目事、可<sub>レ</sub>依<sub>二</sub>天慶例<sub>一</sub>、若有<sub>レ</sub>見<sub>二</sub>先公御記<sub>一</sub>歟、可<sub>レ</sub>注<sub>二</sub>奉<sub>一</sub>者、聊記奉耳、

・『小右記』長和五年(一〇一六)二月二十四日条

資平云、撰政被<sub>レ</sub>勞<sub>二</sub>風病<sub>一</sub>、宇佐宮御幣・神宝宣旨可<sub>レ</sub>下<sub>二</sub>小臣<sub>一</sub>之由、撰政有<sub>レ</sub>命、是被<sub>レ</sub>告<sub>二</sub>即位事<sub>一</sub>之使也、

・『小右記』長和五年(一〇一六)二月二十五日条

入<sub>レ</sub>夜、藏人頭資平持<sub>二</sub>来内藏寮請申宇佐宮神宝料雜物宣旨<sub>一</sub>、

・『小右記』長和五年(一〇一六)三月十四日条

撰政云、御拜三度歟、四度歟、諸卿申<sub>二</sub>慥不覺由<sub>一</sub>、撰政云、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>宇佐神宝<sub>一</sub>之時、有三拜<sub>二</sub>之由側有<sub>レ</sub>所覺<sub>一</sub>、然而又不<sub>二</sub>慥覺<sub>一</sub>、為<sub>レ</sub>之如何者、余申云、今日儀偏被<sub>レ</sub>用<sub>二</sub>神明儀<sub>一</sub>有<sub>二</sub>何事<sub>一</sub>乎、有<sub>二</sub>御幣・東遊等<sub>一</sub>之故也、撰政云、然事也、仍有<sub>二</sub>四度御拜<sub>一</sub>、又申云、被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>宇佐神宝之事<sub>一</sub>、有<sub>二</sub>法服等<sub>一</sub>、其時有<sub>二</sub>三度御拜<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>有<sub>レ</sub>所<sub>レ</sub>扱歟、深有<sub>二</sub>諸氣<sub>一</sub>、諸卿不<sub>二</sub>口入<sub>一</sub>、可<sub>レ</sub>尋<sub>二</sub>見日記<sub>一</sub>、

・『御堂閔白記』寛仁元年(一〇一七)正月九日条

今日又令<sub>レ</sub>勘<sub>下</sub>可<sub>二</sub>大神宝造<sub>一</sub>初日<sub>上</sub>、十九日者、

・『御堂関白記』寛仁元年(一〇一七)三月八日条

(石清水行幸)終日無<sub>二</sub>止時<sub>一</sub>、社頭不<sub>レ</sub>止、仍西乘(舍脱力)立<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、  
御候勘(勅)使・宮主、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)七月九日条

左少弁経頼持<sub>二</sub>来賀茂上下御社司注進神宝勘文<sub>一</sub>、下御社勘文、合<sub>二</sub>行  
事所勘文<sub>一</sub>、上御社勘文多違<sub>二</sub>行事所勘文<sub>一</sub>、問<sub>二</sub>其由<sub>一</sub>、経頼云、使史  
生申云、(下脱力)社司写<sub>二</sub>旧文<sub>一</sub>成<sub>二</sub>勘文<sub>一</sub>、又至<sub>二</sub>上社司<sub>一</sub>、只随<sub>二</sub>神  
人等申<sub>一</sub>所<sub>二</sub>注進<sub>一</sub>者、仰<sub>下</sub>可<sub>レ</sub>依<sub>二</sub>行事所勘文<sub>一</sub>之由<sub>上</sub>、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)八月十五日条

大神宝使十月二日可<sub>レ</sub>立、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)九月十九日条

大外記文義云、明日源大納言可<sub>レ</sub>定<sub>二</sub>申大神宝使<sub>一</sub>者、余所<sub>レ</sub>思者、被<sub>レ</sub>  
申<sub>下</sub>可<sub>レ</sub>参<sub>二</sub>明日定<sub>一</sub>之由<sub>上</sub>、為<sub>レ</sub>定<sub>二</sub>大神宝使<sub>一</sub>依<sub>レ</sub>可<sub>二</sub>参入<sub>一</sub>歟、

・『左経記』寛仁元年(一〇一七)九月十九日条

候<sub>レ</sub>内、入<sub>レ</sub>夜撰政殿令<sub>レ</sub>参給、明日可<sub>レ</sub>有<sub>二</sub>官奏<sub>一</sub>之由、并可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>定<sub>二</sub>  
大神宝使等<sub>一</sub>案内、被<sub>レ</sub>仰<sub>二</sub>頭右中弁<sub>一</sub>、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)九月二十二日条

今日大殿引<sub>二</sub>率北方・尚侍・最弟女等<sub>一</sub>被<sub>レ</sub>参<sub>二</sub>石清水<sub>一</sub>、(中略)於<sub>二</sub>  
条大路<sub>一</sub>見<sub>レ</sub>之、次第、御幣<sub>二</sub>三捧(各三夾)<sub>一</sub>、納<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>長櫃六合、次下  
家司二人、次神馬三疋、次厩司三人(中略)、次左右近将監已下(左十人、  
右十人)、着<sub>二</sub>打懸・末額<sub>一</sub>、垂(乘)<sub>二</sub>駿蹄<sub>一</sub>、(中略)競馬騎者装束於<sub>二</sub>  
石清水<sub>一</sub>可<sub>レ</sub>着<sub>二</sub>敷、路間着<sub>二</sub>打懸等<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>異<sub>二</sub>御靈会<sub>一</sub>、有<sub>レ</sub>目之人必可<sub>レ</sub>  
傾乎、目口無益之世也、次舞人十人(中略)、次隨身、  
・『御堂関白記』寛仁元年(一〇一七)九月二十二日条  
参<sub>二</sub>石清水<sub>一</sub>、(中略)神宝・競馬・舞人等從<sub>二</sub>前渡、後乘車<sub>一</sub>、(中略)  
余車前神宝・競馬・舞人・隨身・御前、

・『左経記』寛仁元年(一〇一七)九月二十二日条

大殿・北方相共令<sub>レ</sub>詣<sub>二</sub>石清水<sub>一</sub>給、(中略)競馬乘尻左右各十人、着<sub>二</sub>  
装束<sub>一</sub>候、乘<sub>二</sub>馬候<sub>一</sub>神宝(中略)、自余事皆如<sub>二</sub>例<sub>一</sub>、

・『左経記』寛仁元年(一〇一七)九月二十三日条

参<sub>二</sub>撰政殿御宿所<sub>一</sub>、頃之令<sub>二</sub>参上<sub>一</sub>給(中略)、已剋許上達部多被<sub>二</sub>参会<sub>一</sub>、  
先被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、次有<sub>二</sub>競馬事<sub>一</sub>、

・『御堂関白記』寛仁元年(一〇一七)九月二十三日条

寅時女方令<sub>二</sub>参上<sub>一</sub>、又次女方乘輦参上、余相共、辰時許撰政率<sub>二</sub>上(公)  
卿・上官<sub>一</sub>参上、後献<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、其議四位以下從舞(マ、)取<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>来<sub>二</sub>  
階下<sub>一</sub>、上(公)卿・余等門樓相对立、如<sub>二</sub>行香<sub>一</sub>取<sub>レ</sub>之、授<sub>二</sub>門内神人<sub>一</sub>、  
々々取<sub>レ</sub>之置<sub>二</sub>御前机上<sub>一</sub>、了各着座、供<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>後競馬、(中略)、次龍王、  
有<sub>レ</sub>定召<sub>二</sub>納蘇利<sub>一</sub>、次音楽、各三曲、犬舞間小雨下、次廻<sub>二</sub>神馬<sub>一</sub>十列、  
神馬三疋永献、馳<sub>二</sub>十列<sub>一</sub>、次東遊、次神楽、次諷誦、(中略)事了下<sub>二</sub>  
宿院<sub>一</sub>、神宝如<sub>二</sub>常<sub>一</sub>、加献者御装束四具、例御装束之外殊奉<sub>二</sub>仕法服<sub>一</sub>  
(加<sub>二</sub>螺鈿香鑪<sub>一</sub>・入爐(皆金)・輪念数篋、入<sub>二</sub>金剛子<sub>一</sub>、三衣篋(入<sub>二</sub>  
三衣<sub>一</sub>)、御装束(加脱力)蒔絵螺鈿長釵・紺地平緒・有文巡方御帶、又  
奉<sub>二</sub>競馬装束・尻鞆等<sub>一</sub>、  
・『小右記』寛仁元年(一〇一七)九月二十四日条  
隨身等在<sub>二</sub>人々共<sub>一</sub>歸来云、昨日神宝等舞人取<sub>レ</sub>之、種々御願云々、  
・『左経記』寛仁元年(一〇一七)九月二十七日条  
参<sub>二</sub>源大納言御許<sub>一</sub>、奉<sub>二</sub>宣旨<sub>一</sub>、即令<sub>二</sub>余申<sub>一</sub>云、来月二日依<sub>レ</sub>可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>  
立<sub>二</sub>大神宝使々<sub>一</sub>、朔日可<sub>レ</sub>行<sub>二</sub>大祓<sub>一</sub>、而彼日坎日也、非<sub>レ</sub>無<sub>二</sub>事忌<sub>一</sub>、  
今月晦日、若<sub>二</sub>二日早旦<sub>一</sub>令<sub>レ</sub>行如何者、即参内申<sub>二</sub>此由<sub>一</sub>、仰云、晦日若  
可<sub>レ</sub>行者、亦被<sub>レ</sub>仰云々(衍力)、伊勢・宇佐(仁)神宝・幣帛相具奉<sub>レ</sub>之、  
自余諸社唯奉<sub>二</sub>神宝<sub>一</sub>、不<sub>レ</sub>奉<sub>レ</sub>幣、而年々宣命幣帛・神宝奉者是如何、  
相尋可<sub>レ</sub>行之由、可<sub>レ</sub>示<sub>二</sub>大納言<sub>一</sub>者、即参申<sub>二</sub>此由<sub>一</sub>、可<sub>二</sub>尋行<sub>一</sub>之由被<sub>レ</sub>  
申、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)九月二十九日条(三十日条か)

今日源大納言奏大神宝諸社宣命草、来月二日發遣云々、

・『日本紀略』寛仁元年(一〇一七)九月三十日条

奏大神宝宣命草、

・『御堂閔白記』寛仁元年(一〇一七)十月一日条

定頼為撰政使、来、明日大神宝所奉仕五十八具、充諸神、今三具余、不知何処、見去天慶十年外記長案、石清水只被奉御裝束、是宣命所見者、余云、件神宝猶石清水御料也、依被奉宇佐、不奉石清水一事無便事也、遠所社奉神宝後、□処不奉者、而余云、奉香(鹿)嶋・香取・平岡、又奉春日・大原野、以之言之、皆同社本末也、仍可奉石清水也、又定頼云、神宝数社数已满了、唯宣命五十三卷也、充之宣命今一通余、為之如何、持来長案、宣命石清水神宝字書落也、至于宣命、見件長案、可有豊受宮歟、件宣命等明神御在所、云伊勢宇治五十鈴川上、又云宇佐八幡、又云石清水、今指所社是等也、豊宮受(受宮)不指御在所、例使只一通持来、若是彼社料歟、此度依大事相加歟、賀茂・稻荷等御所々只大明神者、別々所御神、無別宣命也云々、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)十月二日条

(大外記文義)又云、今日被立畿内七道奉幣帛之使、有被奉神宝社々上、大納言俊賢卿出八省院、給宣命於使々、有所憚不參八省、諸社神宝有其疑、日来被尋前例、無槪記、依作物所勘文所被作、其後多事疑、被問神祇官、所申不槪、筋劔二柄鹿島・香取料者、即載宣命、惣磨宣命、被載石清水宣命、或云、若可被奉園并韓神歟者、此間縱橫無一定、遂被載石清水宣命、又云、不可被奉神宝之神社、載神宝於宣命、上卿云、於八省可改直者、奏覽文、於八省院上卿任、意令改直如何者、内記須以藏人所注送神宝之文、可載宣命、

又藏人所(行事右中弁定頼、藏人頼宣)尋前例、其社(仁)其神宝(止)定、可令造歟、故院御時、左大弁道方行件事、被問彼時例、

所申不槪云々、從始能可被尋事也、(中略)後日大殿被示宰相、奉神宝之社々、臨當日脱窄、事誤太多、勘当行事藏人頼宣、但石清水宮奉神宝二具、今一具不足、彼使讚岐守濟政也、宮寺司神主兼任申云、可有二具、而有二具、可止何宝前乎、宮寺司難進止者、良久不奉者、神宝等又更奉令造可被奉之由、有大殿命者、此事極不宜事也、件事藏人頭定頼同承行事也、宰相云、香椎廟不被奉神宝、只奉幣帛、而此度被奉、以石清水宮神宝被奉香椎廟歟者、能々不被尋行歟、但此事無槪說耳、宇佐三所而被奉二具、仍更造今二具、追被奉宇佐石清水宮等各一具、十月十二日奉調大殿之次、被談云、神宝等充社々、仰行事藏人、而当日改先日定仰社、奉他社々、宇佐姫大神・石清水同大神料不奉、仍惣令造宇佐宮料、十四日以隼船馳奉、宇佐使未奉御幣之前可附(付力)二彼使之由、所令仰也者、此事猶不快事歟、能定仰何有相違哉、不槪之所致歟、

外記文義先日云、当日有左右議、事頗荒涼云々、後日藏人左少弁經頼談宰相云、宇佐二具・石清水各(衍力)一具、合三具令造、差小舍人發遣宇佐使所、仰經頼朝臣被令造件神宝者、行事改定如何、猶不吉事也、件神宝事在二十七日記、

・『御堂閔白記』寛仁元年(一〇一七)十月二日条

此日大神宝、(中略)定頼来問神宝、尋前例被奉石清水、如夜部定奉之、又宣命一通余事、如夜部云豊受宮料也、付消息、尋古宣命如命、有感事云々、皆如定奉了者、

・『左経記』寛仁元年(一〇一七)十月二日条

參内、可覽神宝等之由云々、頃之參八省、御裝束等如常、已剋許、右大弁被參八省東廊、被行大祓(是依京畿七道諸神一



代一度幣帛・神宝等被<sub>レ</sub>奉也、次被<sub>レ</sub>着<sub>二</sub>政請印所<sub>一</sub>（是給<sub>二</sub>太宰<sub>一</sub>・祿綿官符也）、次内侍相共、於<sub>二</sub>小安殿<sub>一</sub>裏<sub>二</sub>伊勢幣<sub>一</sub>、次史・神祇官人相共、於<sub>二</sub>宮城<sub>一</sub>令<sub>レ</sub>裏<sub>二</sub>諸社幣等<sub>一</sub>、列<sub>二</sub>立嘉喜門西腋廊北面<sub>一</sub>、未刻源大納言率<sub>二</sub>内記<sub>一</sub>・外記<sub>一</sub>・史等<sub>一</sub>、從<sub>レ</sub>内參<sub>二</sub>八省<sub>一</sub>、座定之後、大内記義忠、伊勢・度会両宮宣命二卷入<sub>レ</sub>筥、覽<sub>二</sub>上卿<sub>一</sub>、々々移<sub>レ</sub>着東廊座（余并内記・外記・史・召使<sub>一</sub>・官掌同從）、中臣忌部進給<sub>二</sub>御幣<sub>一</sub>、次使王進給<sub>二</sub>宣命<sub>一</sub>退出、次上卿以下歸<sub>レ</sub>着北廊、次義忠、宇佐・香椎宣命二卷入<sub>レ</sub>筥、進置<sub>二</sub>上卿前<sub>一</sub>、次諸社宣命四十九卷入<sub>レ</sub>筥進置、次先宇佐使右衛門佐良頼給<sub>二</sub>宣命<sub>一</sub>（香椎相加）、次々第召使々々給<sub>二</sub>宣命<sub>一</sub>、使等賜<sub>二</sub>宣命<sub>一</sub>退出之間、神祇官人并史致任官掌等相共、於<sub>二</sub>嘉喜門西腋辺<sub>一</sub>、□（給幣力）帛并供給官符等（但殿上人<sub>レ</sub>賜<sub>二</sub>供給官符<sub>一</sub>、宇佐使<sub>レ</sub>不<sub>レ</sub>在此限<sub>一</sub>）、使等各請□進<sub>二</sub>宮城<sub>一</sub>、亦請<sub>二</sub>神宝等<sub>一</sub>分參、及<sub>レ</sub>晚事畢、今日被<sub>レ</sub>立<sub>二</sub>宇佐使<sub>一</sub>之由、於<sub>二</sub>御前<sub>一</sub>有<sub>二</sub>御禊<sub>一</sub>、又召使給<sub>二</sub>御衣<sub>一</sub>襲<sub>二</sub>云々<sub>一</sub>、

神宝支配事

伊勢・度会・宇佐二所<sub>一</sub>（宇佐并太多羅志女料也）・石清水二所<sub>一</sub>（八幡并太多羅志女料也）・賀茂上下・紀伊国日前国懸、已上十一（行力）所、各被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>金銀幣各一枚<sub>一</sub>（納<sub>二</sub>平文筥<sub>一</sub>、在<sub>二</sub>錦折立<sub>一</sub>也）、錦蓋一蓋（付<sub>二</sub>四角金銅鈴<sub>一</sub>）・玉佩一流（納<sub>二</sub>平文筥<sub>一</sub>、在<sub>二</sub>錦折立<sub>一</sub>）・一尺鏡一面（納<sub>二</sub>平文筥<sub>一</sub>、在<sub>二</sub>錦折立<sub>一</sub>）・金銅鈴一口（付<sub>二</sub>錦緒<sub>一</sub>）、已上八物等納<sub>二</sub>赤漆韓櫃一合<sub>一</sub>、以<sub>二</sub>盤絵絹<sub>一</sub>覆、以<sub>二</sub>赤綱<sub>一</sub>結<sub>レ</sub>之、平文麻桶一口・平文線柱一本・平文梓一本（在<sub>二</sub>鉄身尻<sub>一</sub>）・鋤劔一腰（付<sub>二</sub>唐組縫物緒<sub>一</sub>、納<sub>二</sub>赤漆細櫃<sub>一</sub>、在<sub>二</sub>紫色折立<sub>一</sub>、以<sub>二</sub>盤絵絹<sub>一</sub>覆<sub>レ</sub>之）、赤漆弓一張・箭四筋（納<sub>二</sub>赤漆細櫃<sub>一</sub>）、但此外、宇佐使副<sub>二</sub>奉御幣并御裝束等<sub>一</sub>、錦二疋・綾十二疋（緋六尺・紫六疋）・五色絹四十疋五丈（青・黄・緋・白・黒各八疋一丈）・木綿大二斤二兩、生絹二疋一丈、已上幣物等、納<sub>二</sub>赤漆韓櫃二合<sub>一</sub>（在<sub>二</sub>覆<sub>一</sub>・綱等<sub>一</sub>）、

法服一具（櫛甲漆穀袈裟一条（加<sub>二</sub>緒一筋・横被一条<sub>一</sub>）・赤白橡供表衣一領（五重）・赤色裳一腰・淺黄緒線・綾表袴一腰・大口一腰・紫綾帶一筋・青織座具一枚・錦襪一足・挿鞋一足）、已上物等、入<sub>二</sub>平文衣筥一合<sub>一</sub>（□□□錦折立、以<sub>レ</sub>綾裏<sub>レ</sub>之）、

俗御裝束一具（綾青白橡表衣一領・綾下襲并半臂・縮線綾表袴一腰・大口一腰・綾御襪一足・入物等同前）、太多羅志女御裝束（摺綾唐衣一領・目染薄物裙・襪等・蘇芳目染綾裳一腰（各在<sub>二</sub>金銀泥絵<sub>一</sub>）・御袴一腰、入物等同前）、姫宮御裝束一具（桜三重唐御衣一領・摺裳一腰・單袴一具、已上入物等同前、副<sub>二</sub>調布一端一丈<sub>一</sub>、小筵四枚・薦四枚、宮司等料絹三十疋・綿六十屯・調布三十端）、園并韓神・稻荷・松尾・平野・大原野

大和国（春日・大和・大神・石上・率川）・河内国（恩知・平岡）・摂津国（住吉・大依羅・生田・長田、已上不<sub>レ</sub>宛<sub>二</sub>駅鈴<sub>一</sub>）

東海道（伊勢国多度社・尾張国熱田・駿河国浅間（三十）・伊豆国三島・下総国香取・常陸国鹿島）

東山道（近江国日吉・美乃不破・信乃須波・上野貫前・下野二荒・陸奥塩竈・出羽大物忌（四十））

北陸道（若狹若狹彦・越前氣比・能登氣多・加賀白山）

山陽道（マ、）（出雲熊野・杵築）

山陰道（マ、）（播磨伊和・美作中山・備中吉備津彦・安芸伊都岐島（五十））

南海道（伊予大山津見）

西海道（筑前宗像・住吉・筑後高良・豊前宇佐・香椎・石清水姫・肥後阿蘇）

已上四十八所被<sub>レ</sub>奉<sub>二</sub>紫綾蓋一蓋<sub>一</sub>（四角、在<sub>二</sub>金銅鈴<sub>一</sub>）・平文野劔一腰（入<sub>二</sub>赤漆細櫃<sub>一</sub>）・赤漆御弓一張・箭四筋・平文梓一本（在<sub>二</sub>鉄身尻<sub>一</sub>）・五寸鏡一面（在<sub>二</sub>平文錦折立<sub>一</sub>）・平文麻桶一口・平文線柱一本、奉<sub>レ</sub>

除伊勢所并宇佐・香椎等之外者、皆被奉御幣一捧（各絹五疋・綿一疋・糸一兩、以薦裹之）、

・『日本紀略』寬仁元年（一〇一七）十月二日条

一代一度大神宝、先之於八省院東廊大祓、

・『左經記』寬仁元年（一〇一七）十月八日条

源大納言被示云、香椎姬宮并坐石清水・姬宮并三所料神宝、前日取落不奉、仍差御倉小舍人并神祇官人、追可被奉也、早可召誠可然小舍人者、有頃[ ]撰政殿被仰云、藏人頼宣誤留三件神宝等、加奉園并韓神・稻荷等社（御定園・韓神一具也、而加奉園并韓神二具・稻荷三具也）、仍蒙大殿勸責、恐申退出、早召仰作物所、来十二日以前可令作奉（奉作）件神宝三具者、即召預兼善宿祢仰此由、次小舍人豊信仰三件三具料物可[ ]（件豊信從本預行神宝事、其残等預置、仍所仰也）、

・『左經記』寬仁元年（一〇一七）十月十日条

早旦參撰政御宿所、兼善所申請之金四兩二分・銀四兩二分、申事由、取出自納殿令充給神宝料也、次被仰云、宇佐使良頼、以来二十五日可着太宰府、從其可參宇佐之由云々、追可奉神宝、同者追着、彼日以前令請取使良頼宜歟、人々從播磨乘船下向者、二十日以前可遂前途者、

・『左經記』寬仁元年（一〇一七）十月十三日条

（撰政）仰云、石清水神宝使、付宇佐使小舍人可奉歟、為（將力）当別差殿上侍臣可奉歟、此由參大殿可申者、即參申此由、仰、汝參詣奉神宝之次、能申事、心可祈申者、即參令申事由、

・『左經記』寬仁元年（一〇一七）十月十四日条

早旦參内、神宝三具令調備、造物所預兼善宿祢參人、即令給禄（疋絹）、已一剋有御禊（宇佐・石清水神宝等行事藏人頼宣取違奉他所、仍更作神宝、追被奉、因夜（此力）有此禊也）、御禊畢、令持

神宝參石清水、及申剋參着、令申祝奉神宝等畢、宮司等去朔三日（誤脱アルカ）、追被奉錦蓋一・鏑劍一・御弓二・箭八・梓二・一尺鏡一・玉佩一・麻桶・線柱各一・金銀幣一筥・野劍一腰等也、今日神宝相加四具也者、及丑剋煇京、

・『日本紀略』寬仁元年（一〇一七）十月十四日条

奉遣去二日神宝漏落神宝、

・『小右記』寬仁元年（一〇一七）十月十七日条

（經頼）又云、去十四日令持神宝參石清水（二具）、亦二具被奉宇佐、以小舍（人脱力）為使、馳遣使所（初石清水二具被奉之、宇佐二具被奉、各今二具被奉之、先例宇佐四具云々）、件神宝等、物奉仰事所令奉仕也者、

・『小右記』寬仁元年（一〇一七）十一月十四日条

神宝并舞人等裝束赤紐・挿頭等事戒仰之、

・『小右記』寬仁元年（一〇一七）十一月十九日条

權弁来云、神宝事已成了、但申無朱砂之由、先日自藏人所可度之由、行事藏人頼宣申、而今朝申送云、朱砂八十兩、昨日依召奉撰政殿了、已無其遺者、參入撰政殿候氣色如何、余云、善也、（中略）二十三日可令覽神宝之由示弃了、

・『小右記』寬仁元年（一〇一七）十一月二十三日条

（賀茂行幸）行事所注神宝色目、令給内記（下御社二具）、（中略）（宣命草）故是以吉日良辰（を）択定（天）、金銀（乃）御幣（仁）、錦蓋・鏑劍・平劍・唐組平緒・御弓・御箭・御梓・御鏡并種々神宝・音樂・走馬・東遊等（を）相並（天）、唱進（利天）、行幸給（布）、

・『左經記』寬仁元年（一〇一七）十一月二十三日条

今夜於御前有行幸東遊試樂事（乘燭事始）、事畢於同殿南廂[ ]神宝等、

・『左經記』寬仁元年（一〇一七）十二月二日条

宇佐使良頼帰参、令下藏人修理亮範永奏平安奉安神宝等之由、退出、

・『小右記』寛仁元年(一〇一七)十一月二十五日条

今日幸賀茂、(中略)去二十三日御覽神宝、大殿四(日力)、太好奉仕者、(中略)午剋着給下御社、(中略)藏人頼宣来告召由、即参入、御幣・神宝等立御前、侍臣供御贖物、宮主着座、次余着座(中略)、舞人牽立御馬、御禊了、発歌笛声、引出御馬、亦徹御贖物、余起座就案下、挿笏執御幣(取合二挟)而立、推御拜了程(依御簾中)、復座、左大将執挿頭(藤花)、指余冠、了起座退出、(中略)奉仰参御社、為先御幣・神宝等、余引舞人・陪従并行事弁、史・史生等相従、陪従歌遊不休、到社頭、余於御社解劔洗手、着広前座(中略)、次内記進宣命、先是御幣・神宝昇立中門前(当門中央)、余兩段再拜、了説宣命、了又兩段再拜、召祢宜久清給宣命、此間引立御馬、祢宜久清祝伊宣等帰出、分居中門東西(祢宜西、祝東)、祝伝神宣、余拍手、衆人合応、社司・内藏史生・官史生等、檢御幣・神宝、社司請預、次牽廻御馬三度(八度須廻、而依日暮耳)、畢余起座、(中略)幸上社、(中略)参御所、羅列御幣・神宝等於御前、引立御馬(如下御社)、御禊等儀相同、余就案下捧御幣一夾而立、御拜了置御幣退出、(中略)参広前之比、兩脚不止、陪従歌遊、(中略)御幣・神宝等昇立如下社、々司檢請、持参広前舎、洗手着座、説宣命等儀如下社、(中略)引廻御馬、東遊神樂、馳御馬・音楽等皆如下御社、

・『小右記』寛仁二年(一〇一八)四月二十一日条

今日大殿(中略)被参賀茂、(中略)未時許被参乘唐車、御幣、次神宝(納長櫃)、神馬(二疋)并十列、次撰政引率上官、御幣・神宝・神馬如大殿、但舞人十人(左右近府生以上)着青摺袴

同、此外有松尾社走馬二疋、車後陪従發歌笛声遊行、

・『左経記』寛仁二年(一〇一八)四月二十一日条

大殿・撰政殿相共令詣賀茂給、其次第、先大殿(神宝・神馬二疋・十列(各諸衛官人・内舎人乗之)・諸大夫・殿上人・御車後使官人二人)、次撰政(神宝・神馬、舞人(左右近將監以下、府生以上)、諸大夫・史・外記(弁・少納言、御車後使官人二人)、次上達部十人、

・『小右記』寛仁三年(一〇一九)七月十三日条

造伊勢大神宮神宝行事所廻文云、可被進鷲羽事、五十枚、右造神宝箭料、依例所廻如件、今月二十日以前可被進送神祇官西院、

・『小右記』寛仁三年(一〇一九)七月二十五日条

鷲羽五十枚進送造伊勢神宝行事所、依先日廻文也、

・『小右記』寛仁三年(一〇一九)八月二十日条

撰政從別納所(被力)参賀茂、(中略)次弟(第)御幣(下家司二人、騎馬在左右)、次納神宝(長櫃二合・和琴一張、次牽神馬二疋、次着褐衣)者二人、騎走馬二疋、若松尾走馬歟、次左右近衛官人騎十列(中略)、御車後陪従官人等遊行、

・『小右記』寛仁三年(一〇一九)九月四日条

明日伊勢大神宮遷宮神宝等使發遣、今日有内印云々、

・『左経記』寛仁三年(一〇一九)九月四日条

四条大納言被参左仗、被行内印事(伊勢遷宮使以下差文一枚)、事了左大弁於結政所被行請印云々(同遷宮文)、又先是右大弁被着建礼門大祓所、是明日依被立還(遷)宮神宝使也、

・『小右記』寛仁三年(一〇一九)九月五日条

今日伊勢遷宮神宝使發遣自神祇官、使伯秀頼王云々、

・『日本紀略』寛仁三年(一〇一九)九月五日条

被奉遣伊勢大神宮二十一年一度遷宮御裝束・神宝等、使神祇伯

秀賴王、依「弁代」也、

・『左經記』寬仁三年(一〇一九)九月十五條

伊勢遷宮神寶使伯并史等人京云々、

・『左經記』寬仁四年(一〇二〇)十一月十一日條

此日被「奉幣帛・神寶・御裝束等字佐、兼被」奉幣帛香椎御移(廟力)、

・『日本紀略』治安元年(一〇二二)九月七日條

伊勢豐受宮二十年一度御遷宮神寶・幣物官符請印、

・『小右記』治安元年(一〇二二)九月八日條

今日豐受宮神寶(發)遣「自神祇官」云々、

・『小右記』治安元年(一〇二二)十月十四日條

(春日行幸)齊信卿執「篲」、召「内記」給、參「寶前」(神寶・走馬・東遊・

神「(樂力)」「并太良(唐力)・高麗音樂」「果」御願「云々、

・『日本紀略』治安二年(一〇二二)九月八日條

奉「遣」伊勢豐受宮御遷宮神寶・幣帛使、

・『小右記』治安二年(一〇二二)二月二日條

諸卿參入(中略)、定「宇佐宮燒亡事」(「昨日給」府解、去年十二月

二十四日解文云、去夜亥時火出「從」西中門炬火屋「皆燒亡、寄」御輿「

奉」移「御休於御殿」既了、色々神寶奉「取出」又了云々、

・『小右記』治安二年(一〇二二)四月二十一日條

今日関白參「賀茂」奉「神寶并東遊」、

・『左經記』治安二年(一〇二二)十月二十四日條

早日參「行事所」、渡「神実(寶)・舞人裝束等於藏人所」、參「社頭」行「

御裝束等事、

・『左經記』治安二年(一〇二二)十月二十五日條

(平野行幸)主水司供「御手水」、次内藏寮供「御祓物」(御幣・神寶等

皆昇「立御前」)、御襖(禊力)了使捧「幣立、御拜了使歸」座、次右大

弁(定頼)取「插花」賜「使侍臣」、賜「舞人陪從」(於「北幔外」賜「之、

次右府自使賜「宣命」(於「公卿座」賜「之)、次使率「舞人等」參「社頭」、

先東遊、次雅樂、奏「樂舞」(左方歲樂・龍王、右延喜樂・納蘇利)、此

間舞人馳「御馬」(自「南向」北々々(行力)馳「之、舞了使歸」參在所)、

・『小右記』治安三年(一〇二三)正月二十八日條

晚頭良明宿祢進「春日神寶」(座料)、

・『小右記』治安三年(一〇二三)四月十五日條

宰相來云、今日関白被「參」賀茂、(中略)有「神寶・十列等」、左右近

官人騎「之、即是舞人、

・『小右記』治安三年(一〇二三)七月十七日條

今日奉「御幣・神寶・表衣・封戸等於鹿島御社」之日也(去月進發使者、

今日參「着彼御社」之日也)、香取御社不「奉」表衣、依「奉」敬「神明

之懇誠」、於「家中」整「衣冠」遙拜、解除、

・『小右記』治安三年(一〇二三)九月六日條

戊剋許鹿島使經孝來、進「鹿島宮・香取宮司等神寶・御幣・封并表衣・

笏請文」(鹿島神寶・御幣・表衣・笏・常陸封十戸、香取神寶・御幣・

下総封五戸)、經孝申云、路間無「風雨之妨」、期日(七月十七日)參「

着鹿島宮」、奉「御幣等」、翌日渡海參「香取宮」、同以奉「幣等」、宮

官司等申云、御幣・神寶太嚴重、不「似」他所、

・『小右記』万寿元年(一〇二四)十二月二十六日條

今日行「幸北野」、(中略)能信卿率「舞人等」參「寶前」、神寶等在「前、

東遊・大唐・高麗等樂各三曲了、

・『左經記』万寿三年(一〇二六)十月七日條

今日宇佐使被「遣立」(左馬助源章任也)、関白殿同調「神寶」、付「件使」

被「奉」云々、

・『日本紀略』長元三年(一〇三〇)九月二十三日條

於「八省院」遣「權中納言藤原朝臣經通於伊勢大神宮」、奉「種々神寶・

幣帛等」、依「天變怪異御祈」也、

・『左経記』長元四年(一〇三二)四月二十六日条

(関白賀茂詣)及辰刻令出給、其次第、先御幣、次神馬二疋、次神宝、次競馬者二十騎(中略)、次舞人(中略)、次松尾神馬二(左右衛門乘之)、(中略)同剋列下社、先御被(神宝・幣・神馬、舞人各牽)馬、競馬二十人同牽馬、次参社頭、先奉幣・神宝等、次廻御馬、次歌舞(此間社司羞酒肴如例)、已刻事了着馬場、先舞人十人走馬(從上騰走之)、次左右競馬者上、(中略)左勝、仍龍王、次納蘇利、次到上社、作法如下(社脱力)儀、

・『日本紀略』長元四年(一〇三二)八月二十五日条

遣参議右大弁經頼於伊勢大神宮、被遣幣帛・神宝等、

・『小右記』長元四年(一〇三二)九月二十五日条

今日女院参給八幡・住吉・天王寺、(中略)未時許参給、石清水・住吉御幣・神宝韓櫃、

・『左経記』長元四年(一〇三二)九月二十五日条

午剋上東門院令参石清水給、此次同可令詣住吉・天王寺給上云々、(中略)行立(列力)次第、先御幣、次神宝等辛櫃(藏人主典代各二人、宿衣乘馬副也)、

・『左経記』長元五年(一〇三三)正月二十二日条

参殿、奉住吉遷宮神宝勘文、是依有前日可尋仰(事脱力)也、

・『左経記』長元五年(一〇三三)四月二十三日条

有穢不候取(殿力)御賀茂詣、及午剋、於東洞院与春日之辻見物、先御幣・神宝・神馬、次舞人、次乘尻二人、

・『日本紀略』長元七年(一〇三四)三月二十三日条

住吉遷宮、仍奉神財(二十年一度也)、

・『左経記』長元七年(一〇三四)八月二十五日条

早且為中宮御使詣賀茂、奉御裝束等、已刻許帰家、令大外記頼隆真人草鹿島・香取御祈祭文二枚、愚清書、状云々(衍力)、

此事如意思(に)令相叶給(は)、其賽(に)金銀幣帛・神宝、大般若經一部奉為法樂莊嚴、書写供養(之多天末ツラム)、又御封十五戸奉分寄云々(鹿島十戸、香取五戸)、

・『左経記』長元七年(一〇三四)九月一日条

依召参白河殿、頭弁参会語云、去二十八日申刻、使祭主輔親朝臣被奉伊勢太神宮并豊受宮幣帛・神宝等、并金銀幣(各二枚入平文篋)・弓一張・箭四隻・梓一本(已上三種入弓櫃)・錦蓋一流・一尺鏡一面(入置紅平文篋)・筋劔一腰(付平緒)・加錦袋、入赤漆櫃)・麻笥一口(平文)・櫛一本(平文)・玉纒(佩力)一流・青色表衣一領・蘇芳下襲一領・縮線綾表袴一腰(裏納帷各一条)・平文衣篋一合)・木馬一疋(高一尺二寸)、件物等納赤漆辛櫃二合(内外宮各一合)、御馬一疋(件馬前定左一疋也、而依彼穢穢(依(衍力)被奉)右一疋)、但玉纒(佩力)・御馬不被奉外宮、其儀中宮權大夫早参、奏宣命草并清書等(関白殿参入、候御所給、此間於昼御座御覽神宝・御裝束等)、上卿奏之後率内記・上官等、經三月華等門(向八省)・下官奉勅召輔親朝臣於殿上口、伝授神筆宣命、仰云、帰京日儘可返奉者、刻限上卿移着東廊、輔親朝臣率齋部等参入、給御幣、退出之後、上卿召使王、賜宣命之儀如常、但金銀幣・神宝・御裝束計渡、神祇官人御馬牽立同前(馬部相副可参神宮)、事了上卿以下退出云々、

・『扶桑略記』長元七年(一〇三四)十月条

同月、殊勅、神宝奉伊勢太神宮、使祭主神祇伯大中臣輔親朝臣、

・『左経記』長元七年(一〇三四)十一月六日条

權大納言被申云、以祭主輔親朝臣奉可叙從三位(宣旨)上、先於陣腋召輔親朝臣、々々入自和徳門来向、即伝仰依献神宝賞叙從三位之由、輔親退帰、

・『左経記』長元八年(一〇三五)四月十九日条

〔関白賀茂詣〕自夜中一風雨殊甚、仍関白・相府御物詣延引云々、及午剋一陰雲忽晴、風雨共止、自殿有御物詣尚可有(脱アルカ)、只今可參仰(脱アルカ)、仍念參、(中略)即出立給、其次第、先御幣、次神宝、次祓物(中略)、次舞人、

○後朱雀天皇・長元九年(一〇三六)七月十日即位

・『春記』長曆三年(一〇三九)十二月七日条

(後朱雀天皇)仰云、今日令皇后宮大夫定諸社奉幣事、而依三重日、以明日可令定申也、汝可奉仕賀茂社使也、以侍臣等為其使也、金銀神宝并十列・東遊・神樂等、尋先例可奉也、五・六日間可畢也云々、

・『春記』長曆三年(一〇三九)十二月九日条

今日以金銀神宝并御幣、被奉遣伊勢大神宮、是旧御願也、二十一社内事也、

・『春記』長曆三年(一〇三九)十二月十四日条

(頭註、今日公家被立石清水・賀茂奉幣使日也)已時參内、先是皇后宮大夫參内候陣頭云々、(中略)未時許被奏宣命畢、上卿着陣座、(中略)令予又着陣膝突、帶釵也、即給賀茂宣命退帰、此間少納言経成隨身向社神宝、參於右衛門陣外、各分兩社、此間左右陪從等奏歌笛音、予以宣命令入神宝辛櫃為恐落失也、即參社頭、(中略)申剋參着下御社、先令昇立神宝、有二具、又有松尾社御料也、二具是兩度御願云々、予取宣命先再拜、次読畢又再拜、御幣祢宜持畢、奉畢問廻御馬(舞人廻次)、次歌舞、次神樂(予此間在別座)、以府生紀基武飯為人長、事之作法如形云々、事畢馳御馬畢、參上社、御幣并神宝如例(但又二具也、是旧二度御願也、御幣一具也)、東遊間、予端笏立之、神樂又畢退出、此間馳御馬畢、歸參内、

・『春記』長曆三年(一〇三九)十二月十七日条

今日被立奉幣使等、早且皇后宮大夫參入、奏宣命云々、大原野使経季、稻荷信長、祇園経成、吉田(経成相兼)、於石燼壇有御拜、供御半量如例、又去十六日被立此使等、松尾行経、平野・梅宮経家、北野経信、已上有神宝并十列・東遊・神樂等、左右相分勤此役云々、

・『春記』長曆三年(一〇三九)十二月二十日条

今日有奉參(幣力)事、春日社(使權右中将義忠、右近官人并舞人、又右御馬云々)・住吉(左馬頭良経、左近陪從已下云々)、已剋許、皇后宮大夫參入、被奏宣命也、如例有神宝云々、午剋許使給宣命退出、如広沢(田力)之遠社、以諸大夫遣之、有神宝、無東遊等也云々、於石燼壇有御拜如前、

・『春記』長久元年(一〇四〇)八月日(三日以前)条

(豊受太神宮正殿・東西宝殿顛倒)今日奉御膳殿畢、至于神宝物及幣帛等者、移納于外院、

・『春記』長久元年(一〇四〇)八月四日条

昨日召時親・孝秀於藏人所、令勘申宇佐使可被奉遣之日時、勘申云、十月二十一日癸卯時午申、又可初作神宝(九日・十四日)日時同載一紙、予仰云、造神宝事、是内々事也、行事藏人所令勘申也、早可除也、即書改持来也、依入夜草不奏也、今日早且參関白殿、(中略)可作神宝事、兼三千余日可令勘申之由仰、

・『春記』長久元年(一〇四〇)八月五日条

予申云、御幣(金銀御幣)可作之由有勅言、為之如何、(関白)仰云、早於藏人方仰作物所可令作也、撰宜日可作也、打物可用大炊寮納物也、不幾之故也、點定可然之所、可為行事所、若又於遷宮神宝所令作、尤可吉也者、

・『春記』長久元年(一〇四〇)八月八日条

今日藏人頼資來談云、伊勢金銀御幣事、昨日於神祇官奉造始了、是依遷宮神宝行事所也、出納責任・小舍人兼則行事也、内宮打銀幣各一枚(有十清)、外宮又如之、御幣串打二筋、又可令宮同作之、并有平文、又可作小辛櫃(赤漆、有鎖并覆)之事等皆仰之、其打等用大炊寮物也、事大略如此、

・『春記』長久元年(一〇四〇)八月十一日条

祭主永輔(神祇少輔、六位)來談云、今日申刻許入洛、參闕白殿令申事由了、抑去月二十六日大風終夜不休、但太非猛烈、同二十七日午刻許豐受宮神人奔來告云、此宮正殿并東西宝殿等去夜子剋許顛倒者、(中略)神宝等又奉納外院懸力(マ)御倉又了、

・『春記』長久元年(一〇四〇)八月十三日条

自内召即參内、被仰云、金銀御幣無行所、各於細工宅調作由云々、是義忠朝臣所申也、儘可尋、是行事藏人不忠之所致也者、予奏云、件御幣於神祇官調作之、是遷宮神宝調作之所也、先日頼資并出納等罷向彼所、加檢察之由所申(行力)也、於私宅調作由未承、問案内奏聞者、即問案内之處、頼資并出納等云、件神宝非幾事、仍一日初作之後、今日又於彼神祇官作了、即奉納彼官倉了、義忠朝臣遷宮行事也、而惣不參來、仍不見此由歟、依何以荒涼事及奏聞哉者、予即奏此旨了、

・『春記』長久元年(一〇四〇)九月七日条

未時許遷宮神宝使神祇官權大副(弁代)、參腋陣下、(中略)今日彼宮遷(宮脱力)神宝等被發遣也、

・『春記』長久元年(一〇四〇)九月十七日条

予奏云、宇佐神宝今日可作始之由、先日所勘申也、而行事藏人資成不候、若可差遣他人歟、但藏人或輕服或嬰孩也、為之如何、仰云、可觸闕白者、即以義綱令申、命云、過一兩日可作初者、即奏此由了、太奇怪事也、何延怠哉、今日諸卿多參入云々、

權左中弁義忠朝臣云、伊勢豐受宮遷宮神宝皆奉遣也、史季頼今日婦參申云、神宝中有翳匣、件物等渡神人了之後、神人等披見間、件匣中五、六尺許神蛇蟠入、不知其入之時也、尤神靈也、

・『春記』長久元年(一〇四〇)九月十八日条

予申宇佐神宝以明日可令始、日時必不可勘申也、先日所勘申之日時延引之故也者、

・『春記』長久元年(一〇四〇)十月二十七日条

今日被立宇佐使之日也(中略)、早旦束帶參上、祇候侍臣等同束帶也、早供御湯殿畢云々、予仰藏人公基(行事)、令催使并神宝等也、辰剋許神宝等持度了、暫昇立左衛門陣外、行事出納并小舍人等檢察候之、衛士等荷之、少時闕白參入給(所力)不參入給、先以予令案内給、是御物忌輕重事也、奏此由、仰云、早可參入者、闕白即參給御所了、予申云、剋限欲至、可御覽神宝等歟、例是(先例力)於御殿(所力)孫廂御覽之、而此殿無又庇、仍於母屋廂可御覽歟、又依御物忌垂御簾、此間令卷上、仍至于母屋御簾不可下歟、命云、共以可然、依申請早可令運候者、予仰侍臣(五位・六位)等、先令上東廂御簾(以御物忌暫被(令力)付母屋御簾)、又以長筵三枚敷之(石燼壇以北三ヶ間)、其上令運置神宝并御裝束等(西中門南方昇立辛櫃等)、一々取分各其蓋上、運筵上(如例)、件色目具注在別記(仰出納令注進之)、主上著御昼御裝束御覽之、闕白同祇候(宿衣被候也)、予依仰一々令開覽之、又旧御傍劍同御覽(入別宮小(于力)平緒并袋等)、仰云、此神財等甚美麗也、多倍先例、尤可感者、御覽了撤去、各入納辛櫃等、但暫不入御劍・神宝宮鏡(鏡管力)等、為備御禊也、撤筵等了又垂玉(御力)簾(如本、依仰也)、此間右衛門督參入、率内記渡南庭(中略)、於西中門北腋奏宣命草二枚(宇佐宮并香椎廟料也)、予取之奏

間(中略)、件宣命載被奉副別御劔之由也、御覽了返給(入覽(乱力)筥也)、予返給上卿、仰可令清書之由了(中略)、漸及午四點、而使未參入、頻遣召、猶不參入、尤懈怠也、未剋許僅以參候、予奏此由、仰云、早可奉仕御禊御裝束也、闕白命云、件儀用三孫廂是例也、此殿無其廂、仍可東廂也者、予仰藏人等令奉仕御裝束、先垂母屋御簾(移付(マ、)御物忌是例)、上廂御簾、撤昼御座了、其所(東庇南第三間)供御座(掃部官人參上、敷小筵二枚、其上供半疊、南向供)此(北方)廂南第一間(壇間)、敷小筵一枚、為置御(神力)宝机之下敷、內藏寮奉高案一脚(件案彼寮思失不候、仍臨期遣取也、官人參上可立也、然而依無充不參入也)、藏人公基昇之立其筵(東西妻也)、即令置神財等(御劔三腰也、一腰新劔、一腰旧劔、自青宮時所佩御也、聊有所思食所被奉也、一腰新造野劔、二各撤袋等、但置平緒二筋、不結付直置之、野劔料無件者是例也、机北端東西行並置也、又御鏡筥一合・金銀御幣筥一合、各入平文筥也、同机南端並置之、不置他神宝等、皆尋先例所行也、藏人等置之、主上出御(申二點)、予奉御笏、実基朝臣供御贖物、定長盆供(同殿上取伝)、了宮主伊岐則政進御麻(実基伝奉之、定兼於殿巽階前奉之也)、返給了宮主著座(東庭当御座間敷菅円座二枚、東西相共(去力)六・七尺許也、宮主座在、使座在、東、件座少南進敷也、依無使也)、次使左衛門權佐泰憲自西中門北小腋戸參入(宮主同自此戸)參入著座(宮主・使等同南向著云々、泰憲著闕腋袍、把笏・帶劔也、警固間可帶弓箭・敷、行(衍力)但為別使不可帶敷行(衍力)云々)、御禊了宮主退出、使又退出(予仰暫不可退出由、為撤神財机也、仍候中門外云々)、此間有御拜云々(予不見其高敷(二字衍力)所)、御拜了入御、予賜御笏、即召使并藏人公基令昇神宝机(官置神宝撤之、

泰憲撤笏并劔等參上、予相子(示力)也)、賜內藏寮官人(於南面御階左給之)、々々受取之、於西中門外預給下部(出納等共檢察注(色目等)、給下部云々、五色絹御幣有数疋、不御覽也、直計(衍力)授下部云々)、了即上母屋御簾、供昼御座、撤神座并机・下敷・庭中座等如例、

・『春記』長久元年(一〇四〇)十二月二十五日条

平野行幸日也、(中略)社頭(中略)御在所如例、無警蹕、(中略)少時供御手水(女房供之)、次神宝・御幣等立御前、敷使・宮主等座、先是供御座、予奉御笏了、次供御贖物、

・『春記』長久二年(一〇四二)二月二十一日条

行幸北野日也、(中略)即幸御在所(件御在所在社巽角垣外、西向作之)、無警蹕如例、即供御手水了、次昇立神宝・御幣等、敷宮主并使上御座、次舞人等引御馬(列立御前、此間供御贖物、予陪膳(不解)胡籐并劔、若猶可解撥敷、即又奉御笏了、宮主奉御麻了着座、上卿同着之、御禊了宮主退出、宰相俊家取插頭花(上(衍力)授上卿、了即起座、撤神宝等)了、

○後冷泉天皇・寛德二年(一〇四五)四月八日即位

・『水左記』康平七年(一〇六四)四月五日条

今日殿(下脱力)松尾令獻幣(幣)物・神宝・舞人給、

○後三条天皇・治曆四年(一〇六八)七月二十一日即位

・『扶桑略記』延久元年(一〇六九)十月(十八日以前)条

諸国發大神宝使、

・『為房卿記』承暦三年(一〇七九)四月十一日条

今日闕白・左相府參御于賀茂御社、每年式日申日、近年如(有)行幸、仍四月之内撰日次(所)被行也、(中略)參御社頭次第、先神宝(出



納・下家司各二人相副、次神馬二疋、次舞人(中略)、次松尾・河合、乘尻(中略)、左右居飼各十人・舍人十人並行、次競馬乘尻左右二十人、

○白河天皇・延久四年(一〇七二)十二月二十九日即位

・『為房卿記』承曆三年(一〇七九)五月二十九日条

今日行幸八省、被<sub>レ</sub>發遣伊勢奉幣使(藏人方奉仕)、使右衛門督実季卿(来月忌月者、然者有先例云々)、有宸筆宣命云々、今夜以後三ヶ夜於南殿有御拜云々、神宝行事藏人木工允仲実依神宝之華美給御衣云々、

・『師記』永保元年(一〇八一)四月二十八日条

(関白賀茂詣)午初出御西对南面、次舞人渡<sub>レ</sub>東、次殿下々御広庇、(中略)次前掃二人渡<sub>レ</sub>西、御幣二人・神宝韓櫃二合、次御琴、次神馬二疋、祓物、次出納二人、次下家司二人、次神馬二疋(此次第一不慥覺)、次舞人騎馬渡<sub>レ</sub>之、次殿下出御、午初(陪從鳴物等了)、午刻着河原幄有御禊事(中略)、次入御社頭、

・『水左記』永保元年(一〇八一)十月五日条

今日被<sub>レ</sub>始宇佐神宝事、

・『為房卿記』永保元年(一〇八一)十一月三日条

今日被<sub>レ</sub>發遣宇佐使云々、御物忌也、源大納言俊房召<sub>レ</sub>使於陣給<sub>レ</sub>宣命、使出和徳門(并)左衛門陣、神宝自右兵衛陣持廻来会左衛門陣云々、

・『水左記』永保元年(一〇八一)十一月三日条

今日宇佐使立也、(中略)敦基持<sub>レ</sub>来宣命草、就御所令<sub>レ</sub>頭弁奏<sub>レ</sub>之、返給、仰云、令<sub>レ</sub>清書、相次御覽神宝、次御禊、次予令<sub>レ</sub>持<sub>レ</sub>宣命二通(宇佐・香椎)・官符於外記・内記等、参進令<sub>レ</sub>奏<sub>レ</sub>之、返給、

・『水左記』応徳元年(一〇八四)四月十日条

(伊勢奉幣使力)召<sub>レ</sub>敦基令<sub>レ</sub>獻<sub>レ</sub>宣命草、隨<sub>レ</sub>命奉<sub>レ</sub>内覽、依<sub>レ</sub>内御

物忌、関白自<sub>レ</sub>夜部被<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>宿所云々、即返来云、被<sub>レ</sub>候<sub>レ</sub>御前之間、不<sub>レ</sub>能<sub>レ</sub>内覽者、仍招<sub>レ</sub>藏人右少弁基綱示云、先内覽、次可<sub>レ</sub>被<sub>レ</sub>奏、又奏云、先々御馬・別幣等事載<sub>レ</sub>宣命又不<sub>レ</sub>載条不定、雖然今度依<sub>レ</sub>近例所<sub>レ</sub>載候也、還来仰云、早可<sub>レ</sub>令<sub>レ</sub>清書者、大略無<sub>レ</sub>改定所<sub>レ</sub>令<sub>レ</sub>清書也、此間御覽神宝・御馬等、関白着<sub>レ</sub>宿衣被<sub>レ</sub>候云々、就<sub>レ</sub>御所付<sub>レ</sub>頭公定奏<sub>レ</sub>清書之次、申<sub>レ</sub>使大王(マ、)申<sub>レ</sub>御馬之由、有可<sub>レ</sub>許(脱アルカ)返<sub>レ</sub>給<sub>レ</sub>宣命、為<sub>レ</sub>相伴使中納言陣腋停立、使中納言給<sub>レ</sub>御筆宣命退下、相伴出<sub>レ</sub>西門向<sub>レ</sub>大極殿、先着<sub>レ</sub>北廊、召<sub>レ</sub>左中弁匡房問<sub>レ</sub>幣具不<sub>レ</sub>、次召<sub>レ</sub>外記問<sub>レ</sub>使参不<sub>レ</sub>、具<sub>レ</sub>了着<sub>レ</sub>東廊座<sub>レ</sub>如<sub>レ</sub>例、使納言座在<sub>レ</sub>余座北、給<sub>レ</sub>例幣了、次取<sub>レ</sub>宣命授<sub>レ</sub>使納言、乍<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>座取<sub>レ</sub>之、立<sub>レ</sub>座経<sub>レ</sub>余座前<sub>レ</sub>出昇<sub>レ</sub>廊戸、□神宝退出間、余暫<sub>レ</sub>在<sub>レ</sub>此座、使出<sub>レ</sub>郁芳也(門力)、

(神奈川大学経済学部、国立歴史民俗博物館共同研究員)  
(二〇〇八年六月一七日受理、二〇〇八年七月二九日審査終了)